

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文学部	英語コミュニケーション学科	夜・通信	2		12	14	13	
	観光文化学科	夜・通信			14	16	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/roll_yakuin/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 日本基督教団沖縄教区 副議長	2025.06 ～ 2029.06	建学の精神担当
非常勤	(現職) 沖縄銀行常務取締役	2025.06 ～ 2029.06	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では「シラバス作成ガイドライン」に則り科目担当教員がシラバスを作成する。シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・マップ、また作成ガイドラインに基づき、各項目（授業形態、到達目標、授業の概要、各回の授業計画及び事前学習・事後学習、評価方法・評価基準、DPとの関連性 等）について明記している。その際、第三者（学部長、学科長、教学支援部長、学科教員間、等）による点検作業を実施し、適正性に欠けるシラバスについては、担当教員へ修正を指示し、適正な内容へと改善を行っている。 シラバスは3月中旬に完成し、ホームページ上で公表している。シラバス活用については、履修登録ガイドと併せてWebシラバスの利用手順を履修登録前の3月下旬にホームページ上に掲載し学生向けに周知している。	
授業計画書の公表方法	https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目の「評価方法」として、到達目標に対する学修成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を、シラバスにあらかじめ明示している。 (例：定期試験〇%、課題・授業外レポート〇%、小テスト〇% 等) また各授業科目の「評価基準」についても、到達目標で示した学修成果の到達度を評価する際にどこに着目するのか、具体的で客観的な判断基準として「授業別ルーブリック評価」を導入し、評価項目と評価基準について、初回講義時に学生に説明することとしている。 学則及び履修規程に従い成績評価と単位認定を行うが、成績表示、素点評価、評価内容の基準について学生便覧やホームページ上で説明している。 学習意欲の把握については、出欠状況管理システムを導入し、出欠情報を一元管理している。また、出欠調査結果を基に、アドバイザーによる学生指導を実施している。 (参考 ルーブリック利用ガイド： https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2025/03/touroku_8_rubric.pdf) (参考 成績評価について： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_requirements/#seiseki)	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1. 成績評価と単位認定

成績評価は100点満点で行い、下記の基準により評定する。

判定	成績表示	素点評価	GP	評価内容
合格	秀 A	90点以上	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている
	優 B	80点～90点未満	3	到達目標を十分に達成している
	良 C	70点～80点未満	2	到達目標をある程度達成している
	可 D	60点～70点未満	1	到達目標を最低限達成している
不合格	不可 F	60点未満	0	到達目標を達成していない
	欠 K	—	0	出席不足
合格	認 P	—	—	留学における単位認定の評価 ※GPA対象外とする

2. GPA 制度

学期毎に、全履修科目の単位当たりの成績の平均値 (GPA: Grade Point Average) を表示し、以下の計算式によって算出する。

履修科目の換算点の総和／履修科目の単位数の合計

ただし、換算点は〔(科目の単位数) × (その科目で得たグレードポイント)〕とする。小数点第2位まで表記し、第3位を四捨五入する。

〈GPAの対象外科目〉

以下の科目についてはGPA評価の対象としない。

- (1) 教職関連科目で、卒業要件に算入しない科目
- (2) 協議に基づく他の大学又は短期大学で修得した単位を認定した科目。
ただし、本学と同一法人の併設短期大学を除く
- (3) 外国の大学又は短期大学への留学により単位を認定した科目
- (4) 大学以外の教育施設等で修得した単位を認定した科目
- (5) 入学前の既修得単位等を認定した科目
- (6) 編入学・転入学時に単位を認定した科目
- (7) 受講免除科目

3. GPA による履修条件

- (1) 累積 GPA が 3.00 以上の場合、当該学期における履修登録の上限を 24 単位とする。
- (2) 累積 GPA が 3.00 未満の場合、当該学期における履修登録の上限を 20 単位とする。
- (3) 履修条件において、所属学科長との面談により承認された場合は、本項 2 号の上限の限りではない。
- (4) 超過単位については、教員免許取得に必要な科目は含まないものとする。

4. GPA による学修指導

- (1) 累積 GPA が 1.50 に満たない場合、アドバイザーによる勧告・指導・助言を行う。
- (2) 累積 GPA が 1.00 に満たない者には、学部長が退学を勧告することができる。

※1. ～4. 関連規程

沖縄キリスト教学院大学履修規程 (成績評価と単位認定) 第 12 条
(GPA 制度) 第 13 条

5. 客観的な指標に基づく成績の分布状況の把握については、「成績分布状況表」(※添付資料)を作成する。

※添付資料

人文学部 (英語コミュニケーション学科)「成績分布状況表」

人文学部 (観光文化学科)「成績分布状況表」

客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページ https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_requirements/#GPA 成績評価と単位認定、及び GPA 制度について定めた「沖縄キリスト教学院大学履修規程」を学生便覧に掲載している (新入生全員に配布)
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

沖縄キリスト教学院大学

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- (1) 「仕えられるためではなく仕えるために」他者と協働し、キリストの精神を礎とした平和な地域社会・国際社会の実現へ貢献することができる（キリスト教・平和・社会貢献）。
- (2) 高い人権意識と語学力を持って他者の考えや思いを理解するとともに主体性を持って自分の考えを表現し、平和的なコミュニケーションを実践することができる（語学力・社会的倫理観・コミュニケーション能力）。
- (3) 他者の文化や社会、歴史や価値観が多様であることを深く理解し、寛容性と責任感のある地球市民として共生を目指し行動できる（多文化共生）。
- (4) 修得した知識・技能を活かして地域社会の課題を発見・解決できる（地域貢献）。

英語コミュニケーション学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること
2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること
3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること
4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること

観光文化学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・理解
建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。
2. コミュニケーション力
外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。
3. 自己理解力
豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を身につけて行動することができる。
4. 課題対応力
グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。

沖縄キリスト教学院大学学則

(卒業・学位)

第 44 条 本学に 4 年以上在学し、英語コミュニケーション学科においては、別表第 1 及び別表第 2、観光文化学科においては、別表第 1 及び別表第 3 に掲げる所定の授業科目数及び単位数を修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき所定の単位数のうち、第 31 条の 2 第 2 項に規定する授業の方法で履修し修得した単位は、60 単位を超えない範囲で認定する。

3 学長は、第 1 項の卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

4 卒業の認定及び卒業証書・学位記授与は、3 月及び 9 月に行う。

(学位の授与)

第 45 条 学長は、卒業を認定した者に学士の学位を授与する。

2 学位の授与については、別に定める。

●「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた上で、所定の授業科目数及び単位数を修得した学生に対し、学則第 44 条及び第 45 条に則り、卒業を認定し学位を授与する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/policy_ocu/ 英語コミュニケーション学科 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/ 観光文化学科 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu-tourism_culture-policy/
----------------------	--

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88
収支計算書又は損益計算書	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88
財産目録	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88
事業報告書	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E6%8E%B2%E8%BC%89%E6%97%A5%EF%BC%9A2021.6.10%EF%BC%89-,%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-2023%E5%B9%B4%EF%BC%88%E6%8E%B2%E8%BC%89
監事による監査	https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho02:~:text=%E8%B2%A1%E5%8B%99%E6%83%85%E5%A0%B1-,%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%83%BB%E7%9B%A3%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8,-%E3%80%90%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%B3%95%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E8%A8%88

報告 (書)	
-----------	--

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2025 年度事業計画	対象年度：20025 年度 ）
公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2025/03/c725f811cd6e0ea748d8964ddfd133ee.pdf	
中長期計画（名称：沖縄キリスト教学院第5次中長期計画	対象年度：2022 年～2027 年度 ）
公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/0800_tyutyokikeikaku_2022-2027.pdf	

3. 教育活動に係る情報

（1）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho03
--

（2）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： 1001_ocu_hyokahokokusho.2024.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	人文学部 英語コミュニケーション学科、観光文化学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/mokuteki_ocu/ ）	
（概要） 人文学部 沖縄キリスト教学院大学は、建学の精神、大学の使命・目的、及び基本理念を踏まえ、人文学部の教育目的・理念を以下のように定める。 （１）聖なるものへの畏敬の念を養う （２）多様性の中に調和を求める心を養う （３）人類の福祉の向上に貢献できる能力を養う （４）グローバル化・情報化・複雑化社会に対応する能力を涵養する 英語コミュニケーション学科 国際化・グローバル化する世界の文化・経済・政治等の国際交流の場において、事実上の国際共通語（de facto international language）となっている英語において、高度のコミュニケーション能力をもって、効果的かつ分別をもって運用できる人材を育成する。 観光文化学科 「光を観る」という観光の学びとして、歴史・文化の本質を理解したうえで、文化資源及び観光資源の光の価値を認識し、国内外へ発信できる人材、さらに、他地域との比較によりそれらに対する新たな価値を創出し、文化振興及び観光振興に貢献できる人材を育成する。また、実践的な教育の取り組み強化により、大学の教育・研究と地域社会の実態との乖離を無くし、観光産業発展に寄与できる優れた人材を育成する。	
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/ https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu-tourism_culture-policy/）	
（概要） 英語コミュニケーション学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること 観光文化学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。	

3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を身につけて行動することができる。 4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/ https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu-tourism_culture-policy/)
(概要) 英語コミュニケーション学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 1. キリスト教文化やイエス・キリストの精神を学び、平和創造へ向けて自己理解と他者への共感力を育む教育を行う。 2. 幅広い視野に根差した実践的な英語スキル向上を図るための教育を行う（英語力）。ならびにプレゼンテーション能力、自己表現力、情報発信力、共感力を持った主体的・協働的コミュニケーション能力育成のための教育を行う（コミュニケーション力）。 3. 幅広い教養、論理的思考、批判的思考を獲得し、国際理解や異文化理解の知識を広く学ぶことで、異なる文化や背景を持つ他者に対して理解と共感を深めるための教育を行う。 4. 課題発見力を養い、他者と協働することで問題を解決する力を養う教育を行う。 観光文化学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 1. キリスト教の文化や歴史を広く学び、平和を育む教育を行う。 2. 観光、文化、歴史、語学を広範に学ぶことで、高い教養と専門的能力を培う教育を行う。 3. 他者と柔軟に協働する力と倫理観を養い、コミュニケーション能力を育む教育を行う。 4. 文化資源、ホスピタリティ、持続可能を理解するとともに、その課題解決に主体的に取り組む能力と資質を養う教育を行う。 5. グローバル社会の中で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、多文化共生を目指す精神を培い、人間力を育む教育を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/ https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu-tourism_culture-policy/)
(概要) 英語コミュニケーション学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） <教育理念> 「国際共通語」である英語と高度なコミュニケーション能力を駆使し、多様化する地球・沖縄社会で、自信を持って活躍する人を育てます。 <求める人物像> 1. 沖縄と世界の架け橋になるために必要な知識と技能の習得に努力する学生を求めます。 2. 英語を自由自在に使いこなし、英語を使って社会で活躍したい学生を求めます。 3. まわりの情報にふり回されることなく、自分で考え自分で判断しようとする学生を求めます。 4. 社会のなかで他人の意見も尊重しながら自分自身を表現し、周りの人と力を合わせるための基礎的なコミュニケーション力がある学生を求めます。 5. 様々な社会の課題に関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲のある学生を求めます。

<高等学校で履修すべき科目や取得しておくことが望ましい資格等>

どの科目も積極的に学んでください。高等学校の教育課程の幅広い履修を通して、沖縄や世界の抱える課題について関心を持つことを期待します。学内外での学習や部活動、ボランティア活動や地域社会での活動を通して、人の話を聴く力、自分の意見を表現する力、人と積極的に関わる力の向上に取り組んでください。また多様な背景をもつ人たちと交流することで、自分とは違った価値観や考えに触れる機会を持ってください。本学での学びを最大限に生かすために、実用英語技能検定準2級レベル以上の英語力を身につけていることが望ましいです。

観光文化学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 本学の「建学の精神」に賛同し、平和的な社会に主体的に貢献しようとする者。
2. 語学・観光・文化の習得や他者とのコミュニケーションを積極的行おうとする者。
3. 社会の様々な課題に興味があり、違う文化や価値観を持った人々と主体的に交流し共生を目指そうとする者。
4. 高等学校等で習得すべき基礎的な学力（知識、思考力、主体性など）を身につけている者。
5. 本学で学ぶ知識や経験をもとに地域社会や国際社会に貢献したいという目的意識と意欲がある者。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
人文学部	2 人	－					2 人
	－	12 人	9 人	3 人	人	人	22 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		39 人					39 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
		英語コミュニケーション学科 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/faculty_ocu_ecom/					
		観光文化学科 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/faculty_ocu_ct/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「沖縄キリスト教学院大学FD委員会」を設置し、建学の精神を踏まえた学部及び学科の教育目的並びに、目標とする教職員像及び人材育成方針に基づき、教育内容・教育方法の改善を図るため、様々なFD活動を行っている。							
【主な活動内容】							
・FDに係るアセスメント調査（授業改善アンケート、学生生活実態調査、成績分布状況等）の計画・実施及び結果分析							
・ティーチング・アワードの選考							
・FDワークショップの実施							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	180 人	168 人	93.3%	570 人	541 人	94.9%	15 人	4 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	180 人	168 人	93.3%	570 人	541 人	94.9%	15 人	4 人
(備考) ・本表の収容定員については、既存学科（390 名）に、令和 6（2024）年度開設した観光文化学科の学年（2 学年分／180 名）を加えた人数を記載している。 ※様式第 1 号添付書類及び機関要件の確認事務に関する指針（p. 47）に準拠。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人文学部	70 人 (100%)	2 人 (3%)	61 人 (87%)	4 人 (5%)

	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	70 人 (100%)	2 人 (3%)	61 人 (87%)	4 人 (5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：沖縄キリスト教学院大学大学院、北海道大学大学院 就職先：Citi グループ、ヒルトン沖縄北谷リゾート、おきぎん JCB、日本トランスオーシャン航空、琉球 エアークommuter				
(備考) ・卒業者数については、英語コミュニケーション学科のみである。 令和 6 (2024) 年度に開設した観光文化学科については、学年進行 (2 年次まで) により、卒業者は未 だいない。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	67 人 (100%)	40 人 (59.7%)	16 人 (23.9%)	11 人 (16.4%)	0 人 (0.0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	67 人 (100%)	40 人 (59.7%)	16 人 (23.9%)	11 人 (16.4%)	人 (%)

（備考）

- ・2025 年 3 月 31 日現在。
- ・入学者については、10 月入学生、編入学生は含まない。
- ・留年者数には、留学等の休学により在籍不足となる学生（16 人）を含む。
- ・中途退学者については、除籍（3 人）を含む。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

授業科目について、本学では「シラバス作成ガイドライン」に則り科目担当教員がシラバスを作成する。シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・マップ、また作成ガイドラインに基づき、各項目（授業形態、到達目標、授業の概要、各回の授業計画及び事前学習・事後学習、評価方法・評価基準、DP との関連性 等）について明記している。その際、第三者（学部長、学科長、教学支援部長、学科教員間、等）による点検作業を実施し、適正性に欠けるシラバスについては、担当教員へ修正を指示し、適正な内容へと改善を行っている。

シラバスは 3 月中旬に完成し、ホームページ上で公表している。シラバス活用については、履修登録ガイドと併せて Web シラバスの利用手順を履修登録前の 3 月下旬にホームページ上に掲載し学生向けに周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

学修の成果に係る評価は、各授業科目の「評価方法」として、到達目標に対する学修成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を、シラバスにあらかじめ明示している。

（例：定期試験〇％、課題・授業外レポート〇％、小テスト〇％ 等）

また各授業科目の「評価基準」についても、到達目標で示した学修成果の到達度を評価する際にどこに着目するのか、具体的で客観的な判断基準として「授業別ルーブリック評価」を導入し、評価項目と評価基準について、初回講義時に学生に説明することとしている。

客観的な指標として GPA 制度を採用しており、活用状況については下記 URL にて公表している。

卒業の認定に当たっては、以下の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた上で、所定の授業科目数及び単位数を修得した学生に対し、学則第 44 条及び第 45 条に則り、卒業を認定し学位を授与している。

【沖縄キリスト教学院大学】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）「仕えられるためではなく仕えるために」他者と協働し、キリストの精神を礎とした平和な地域社会・国際社会の実現へ貢献することができる（キリスト教・平和・社会貢献）。

(2) 高い人権意識と語学力を持って他者の考えや思いを理解するとともに主体性を持って自分の考えを表現し、平和的なコミュニケーションを実践することができる（語学力・社会的倫理観・コミュニケーション能力）。

(3) 他者の文化や社会、歴史や価値観が多様であることを深く理解し、寛容性と責任感のある地球市民として共生を目指し行動できる（多文化共生）。

(4) 修得した知識・技能を活かして地域社会の課題を発見・解決できる（地域貢献）。

【英語コミュニケーション学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること
2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること
3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること
4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること

【観光文化学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・理解
建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。
2. コミュニケーション力
外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。
3. 自己理解力
豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を身につけて行動することができる。
4. 課題対応力
グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。

【沖縄キリスト教学院大学学則】

（卒業・学位）

第 44 条 本学に 4 年以上在学し、英語コミュニケーション学科においては、別表第 1 及び別表第 2、観光文化学科においては、別表第 1 及び別表第 3 に掲げる所定の授業科目数及び単位数を修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき所定の単位数のうち、第 31 条の 2 第 2 項に規定する授業の方法で履修し修得した単位は、60 単位を超えない範囲で認定する。

3 学長は、第 1 項の卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

4 卒業の認定及び卒業証書・学位記授与は、3 月及び 9 月に行う。

（学位の授与）

第 45 条 学長は、卒業を認定した者に学士の学位を授与する。

2 学位の授与については、別に定める。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	英語コミュニケーション学科	124 単位	㊥・無	※24 単位
	観光文化学科	124 単位	㊥・無	※24 単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		※GPA による履修条件 (1) 累積 GPA が 3.00 以上の場合、当該学期における履修登録の上限を 24 単位とする。		

	(2) 累積 GPA が 3.00 未満の場合、当該学期における履修登録の上限を 20 単位とする。 (3) 履修条件において、所属学科長との面談により承認された場合は、本項 2 号の上限の限りではない。 (4) 超過単位については、教員免許取得に必要な科目は含まないものとする。 ※※GPA による学修指導 (1) 累積 GPA が 1.50 に満たない場合、アドバイザーによる勧告・指導・助言を行う。 (2) 累積 GPA が 1.00 に満たない者には、学部長が退学を勧告することができる。 公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_requirements/#GPA
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法： ・学生による授業改善・評価アンケート結果 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho11 ・学生生活実態調査報告書 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho12 ・学生満足度調査 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#0305 ・資格取得奨励金給付実績 https://www.ocjc.ac.jp/campuslife/support_official/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
 教育環境：https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/info_edu/
 校地・校舎：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/kouti/>
 キャンパスマップ：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/cmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人文学部	英語コミュニケーション学科	660,000 円	130,000 円	220,000 円	教育充実資金（年間） 休学中の在籍料（年間）
	観光文化学科	660,000 円	130,000 円	220,000 円	教育充実資金（年間） 休学中の在籍料（年間）
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 1. 奨学金 意欲と能力があり、経済的理由により、学費援助を必要とする学生のために本学独自の奨学金があり、すべて給付型（返還不要）である。 2. 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者 入学手続き時に「大学等奨学生採用候補者決定通知」の写しと共に「学費分納願」を提出し、分納手続きを行った入学生については、前期分授業料減免予定額を入学後まで猶予している。入学後、JASSO より採用の確認が取れ次第、奨学金と減免額の振替処理を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 1. 就職について キャリア支援課において、徹底した「個別支援」、きめ細やかな就職支援を行っている。 （１）個別相談・個別支援 （２）進路セミナー（６月） （３）キャリア&アカデミックプランニング講座 （４）就職ガイダンス（Tcafe） （５）就職セミナー★1Days （６）業界研究 cafe （７）学内企業説明会の開催（対面、オンライン） （８）各種資格/試験対策講座の開講 ①英検対策講座 ②日本語検定３級対策講座 （９）講義との連携 （１０）県外就職促進事業 （１１）資格取得奨励金給付（英検、TOEIC を含め英語系資格取得者への奨励金） 2. 進学について 大学院進学についての各種相談、情報提供等を学生課にて行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・学生一人ひとりに入学と同時に担当教員（アドバイザー）を決定し、何でも気軽に話し合える関係づくりと学生のアカデミックライフの資質向上を目標としたオフィスアワーの体制をとっており、学生個々人の豊かな自己発展につながるよう支援している。 ・専門のカウンセラーによる面談・メールでの相談を受けている。 ・毎年４月（復学者は９月）に健康診断を実施し、学生の身体状況を把握している。結果に

より校医等による相談・指導などフォローアップを行っている。
・障害学生に対しては、規程を整備し大学全体でサポート・合理的配慮の提供ができる体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/eduinfo/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。

2025年度

沖縄キリスト教学院大学 人文学部

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

※各科目のシラバスについては、検索システムよりご確認ください。

【共通教育科目】

	科目名	科目群	単位数	担当教員（実務経験）	備考
1	SDGs概論	共通教育	2	金城 さつき	
		計	2		

【英語コミュニケーション学科 専門科目】

	科目名	科目群	単位数	担当教員（実務経験）	備考
1	観光学概論	沖縄・グローバル研究領域	2	糸澤 幸子	
2	マーケティング	キャリア&ビジネス領域	2	安部 潤	
3	インターンシップ	キャリア&ビジネス領域	2	安部 潤	
4	沖縄の地域産業と地域づくり	キャリア&ビジネス領域	2	石原 修	
5	コミュニティデザインとしてのNGO・NPO	沖縄・グローバル研究領域	2	串間 武志	
6	英語科教育法Ⅰ	教職科目	2	大城 直人	
		計	12		

【観光文化学科 専門科目】

	科目名	科目群	単位数	担当教員（実務経験）	備考
1	観光学概論	観光文化科目	2	上地 恵龍	
2	SDGsと観光	観光文化科目	2	平野 典男	
3	経営学	観光文化科目	2	上地 恵龍	
4	ホスピタリティと異文化理解	観光文化科目	2	糸澤 幸子	
5	マーケティング論	観光文化科目	2	安部 潤	
6	ツアーコンダクター論	観光文化科目	2	糸澤 幸子	
7	エアラインサービス論	学科専門応用科目 ホスピタリティ領域	2	愛甲 香織	
		計	14		

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (2-0)	選択科目：共通科目
担当教員			
金城 さつき			
授業形態：講義	ナンバリング：GEC107		
添付ファイル			
授業ルーブリック「SDGs概論」.pdf			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を通して、現在の社会における課題に向き合う 【到達目標】 知識理解：SDGsが掲げた背景や目的、意義を理解することができる 思考・判断：持続可能な開発とは何か、現在起こっている問題を踏まえ思考することができる 技能・表現：自ら進んで探究し、課題に取り組めるようになる 意欲・関心：世界情勢、海外や国内、自分自身の地域に興味関心を持ち、課題に目を向けることができる 態度：グローバルイシューからローカルイシューまで課題を自分ごととして捉え、解決に向けて行動意欲をもつことができる。		
授業の概要	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標である持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）について、その背景や目的、意義、そして17のゴール・169のターゲットに対する知識を習得しする。 担当教員のNGO等での活動経験を踏まえて、普段の生活の中、地域社会や日本や世界で生じている事象や取り組み事例を交えて理解を図り、「持続可能な開発／社会」とは何かを共に考える授業を実施する。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス 本授業の内容、評価等を確認する 【事前学習】 シラバスの内容を確認する（1h） 【事後学習】 SDGsとは何かを調べる（1h） 第2回 SDGsが採択されるに至った背景 SDGsが採択に至った背景、社会状況をシミュレーション及び関連する報告書等の資料から現状を読み取りながらSDGsとは何か考え理解する 【事前学習】 SDGsとは何かを調べる（1h） 【事後学習】 SDGsができるに至った背景等をさらに調べる（2h） 第3回 SDGsの内容と目的 グループワークを通して、SDGsの17のゴール、169のターゲットの内容を理解する 【事前学習】 SDGsにどのようなゴールやターゲットがあるか調べ、内容を確認する（1h） 【事後学習】 さらにゴールやターゲットを具体的にイメージできるようにする（2h） 第4回 飢餓をゼロに 目標2に関連して飢餓や食料の問題について考える 【事前学習】 目標2及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第5回 すべての人に健康と福祉を 目標3に関連して健康と福祉に関連する問題について考える 【事前学習】 目標3及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第6回 質の高い教育をみんなに 目標4に関連して教育に関する現状や課題等について考える 【事前学習】 目標4及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第7回 安全なトイレと水を世界中に 目標6に関連して水と衛生へアクセスについて考える 【事前学習】 目標6及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第8回 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 目標7に関連してエネルギーのアクセスについて考える 【事前学習】 目標7及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第9回 人や国の不平等をなくそう 目標10に関連して国内及び国家間の格差について考える 【事前学習】 目標10及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第10回 住み続けられるまちづくりを 目標11に関連して、災害とまちづくりについて考える 【事前学習】 目標11及び関連するターゲットを調べる（1h） 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる（2h） 第11回 つくる責任、つかう責任 持続可能な生産・消費とは何かを考える 【事前学習】 目標12及び関連するターゲットを調べる（1h）		

	第12回 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる (2h) 気候変動に具体的な対策を 目標13に関連して気候変動や環境問題について考える 【事前学習】 目標13及び関連するターゲットを調べる (1h) 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる (2h) 第13回 平和と公平をすべての人に 目標16に関連して平和や公平な社会について考える 【事前学習】 目標16及び関連するターゲットを調べる (1h) 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる (2h) 第14回 パートナリシップで目標を達成 目標17に関連して持続可能な開発、目標達成に向けたパートナーシップについて考える 【事前学習】 目標17及び関連するターゲットを調べる (1h) 【事後学習】 取り上げた内容についてさらに調べる (2h) 第15回 足元から考える持続可能な開発 これまで見てきた課題、沖縄県及び県内で取り組まれている事例を元に足元から持続可能な開発とは何かを考える 【事前学習】 沖縄県及び県内で取り組まれている事例について調べる (1h) 【事後学習】 授業全体を振り返り「持続可能な開発」とは何か考え思考を深める (2h) 第16回 テスト
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【☐】 3) ICTの活用 【☐】 4) 初年次教育 【☐】 5) 実践的PBL 【☐】
テキスト	特になし
参考書	その都度提示する
評価方法	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業内発言・課題取り組み(30%)、授業後の振り返りシート(30%)、活動発表(10%)、テスト(30%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 (英語コミュニケーション学科) 【☐】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【☐】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○ ☐】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること (観光文化学科) 【○】 1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【☐】 2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【○】 3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【☐】 4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	講義とワークショップ等を取り入れながら実施するため積極的な参加が必要となる。 日頃から新聞等も見ながら時事問題や情報を収集いただく。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	授業毎のリアクションペーパーは毎回全体へ共有し、授業時にコメント及び質問への回答を行う。

講義科目名称： 観光学概論 ※英語コミュニケーション学科 授業コード： 5198C

英文科目名称： Introduction to Tourism studies

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1～2年	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門基礎科目（沖縄・グローバル研究領域）
担当教員			
糸澤 幸子			
授業形態：講義	ナンバリング：BUS180		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 観光学の基礎知識、日本・世界の観光史、多岐にわたる様々なツーリズム形態と現状、持続可能なツーリズム、観光業界の具体的な事例を学ぶことで、観光学を身近な学問として認識し、成熟化社会における観光の有り方を理解する。 【到達目標】 知識・理解の観点：日本と世界の観光史、多岐にわたる様々なツーリズムの形態や関連する知識を理解する。 技能の観点：様々なツーリズムの視点で課題を見出し、その課題の解決に向けて議論することができる。 態度の観点：持続可能なツーリズムの重要性を認識し、成熟化社会における観光の有り方を意識する。		
授業の概要	本講義をととして、観光とは何か、観光にかかわる様々な事柄などを理解しながら、観光学に関する俯瞰的な理論、観光の現場や学術において使われるキーワード、具体的な観光現象について学ぶ。 担当教員は、大手旅行会社において、海外旅程管理専門職として勤務した実務経験を活かし、様々なツーリズムの形態や特性について、実践上の課題を踏まえた具体的な事例を提供・解説し、多角的視点からツーリズムの諸知識を講義する。観光業界の具体的な事例を学ぶことで、観光学を身近な学問として認識し、成熟化社会における観光の有り方を理解することが、本授業のねらいである。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 講義の流れ、教員自己紹介、受講ルール、評価方法の説明。 『観光学』の導入プロローグ。 【事前学習】シラバスを読み、授業の流れを把握する。（30分） 【事後学習】オリエンテーションの内容を確認する。（30分） 第 2 回 観光学とは 観光とは何か、観光学とは何か、中国の古典『易経』に由来している「観光」の意味を理解し、ラテン語に由来する「ツーリズム」の定義を学ぶ。 【事前学習】「観光」の意味を調べる。（1時間） 【事後学習】授業で学んだ「観光学」の広域な意味を考え、理解を深める。（1時間～） 第 3 回 世界の観光史 世界における観光の歴史について、古代、中世、近代、現代の4つの時期に沿って、それぞれの変遷と経緯を学ぶ。 【事前学習】観光に関連した世界の歴史を調べる。（1時間） 【事後学習】授業で学んだ「世界の観光史」を復習し、理解を深める。（1時間～） 第 4 回 日本の観光史 日本における観光の歴史について、平安、江戸、大正、昭和、平成、令和の6つの時期に沿って、それぞれの変遷と経緯を学ぶ。 【事前学習】観光に関連した日本の歴史を調べる。（1時間） 【事後学習】授業で学んだ「日本の観光史」を復習し、理解を深める。（1時間～） 第 5 回 ホスピタリティ産業と観光 ホスピタリティ産業について理解し、その中に位置する観光産業の具体的な内容と役割、重要性を学ぶ。 【事前学習】ホスピタリティ産業について調べておく。（1時間） 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。（1時間～） 第 6 回 世界遺産ツーリズム 世界遺産の意味、歴史、ユネスコによる登録システム、危機遺産について学び、国内外の世界遺産の現状を理解する。 【事前学習】沖縄にある世界遺産について調べる。（1時間） 【事後学習】授業で学んだ世界遺産や危機遺産について復習し、理解を深める。（1時間～） 第 7 回 コンテンツツーリズム コンテンツツーリズムの基礎知識、定義、国内外の現状、公式コンテンツと擬似コンテンツの違い、コンテンツが地域へ及ぼす波及効果、地域活用について学ぶ。 【事前学習】自分の好きなコンテンツについて調べる。（1時間） 【事後学習】これまでの講義内容を振り返り、期中テストに備える。（1時間～） 第 8 回 期中テスト、プライダルツーリズム 前半は、期中テストを実施する。 後半は、プライダルツーリズムについて学ぶ。 【事前学習】期中テストの準備をする。（1時間～） 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。（1時間～）		

第 9 回	エコツーリズム エコツーリズムの歴史・多様性・実践例・課題、グローバル社会における持続可能な観光のあり方、観光資源の保全法について学ぶ。
第 10 回	【事前学習】エコツーリズムという観光の形態について調べる。(1時間) 【事後学習】授業で学んだエコツーリズムの実例を調べ、理解を深める。(1時間～) 観光の現場から 空港のグランドスタッフ、リゾートホテルで勤務経験のあるゲストスピーカーを講師として招聘し、観光の現場での経験をホスピタリティの実践経験の講義から学ぶ。
第 11 回	【事前学習】グランドスタッフやホテルの仕事について調べる。(1時間) 【事後学習】ゲストスピーカーへの感想文を書いて提出する。(1時間～) フードツーリズム フードツーリズムの意味、歴史、特色、食と食文化が地域の文化資源と観光資源に果たす役割と重要性、諸課題について学ぶ。
第 12 回	【事前学習】自分の好きな食や食文化について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) スポーツツーリズム スポーツツーリズムの意味、歴史、特色、スポーツが地域の文化資源と観光資源に果たす役割と重要性、諸課題について学ぶ。
第 13 回	【事前学習】自分の好きなスポーツや関連地域について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 巡礼ツーリズム 巡礼ツーリズムの意味、歴史、特色、巡礼が地域の文化資源と観光資源に果たす役割と重要性、諸課題について学ぶ。
第 14 回	【事前学習】巡礼の意味について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) クルーズツーリズム 沖縄にとって重要な観光産業であるクルーズ産業について学ぶ。
第 15 回	【事前学習】クルーズ産業について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 多様なツーリズムと持続可能性 これまでに学んだ多様なツーリズムを振り返り、成熟化社会におけるサステナブルツーリズムについて学ぶ。
第 16 回	【事前学習】これまでに学んだ多様なツーリズムを振り返る。(1時間) 【事後学習】これまでの講義を振り返り、自分が最も興味のあるツーリズムについて、期末レポートにまとめて提出する。(1時間～) なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	必要に応じてレジュメを配布する。
参考書	講義において、適宜紹介する。
評価方法	授業の参加度・授業態度(20%)、期中テスト(30%)、感想文(20%)、期末レポート(30%)によって総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【 ☐ 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 ☐ 】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【 ☐ 】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 ☐ 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	期末レポート等の提出物は、指定した期日までに提出すること。提出期限を過ぎた場合は、理由に関わらず受け付けられない。評価方法については初回オリエンテーションで説明する。
オフィスアワー	糸澤 幸子・木曜日：4限(14：40～16：10) ※ Teams チャットにて予約してください。
課題に対するフィードバック方法	提出課題はコメントを付した後、フィードバックする。

講義科目名称： マーケティング

授業コード： E089A

英文科目名称： Marketing

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	選択科目：大学共通科目（インターナショナル・ビジネス）
担当教員			
安部 潤			
授業形態：講義	ナンバリング：BUS371		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 マーケティングの基礎を習得する。 【到達目標】 ・マーケティング理論を、実際のマーケティング活動事例(ケーススタディ)と照らし合わせて、実践的な知識として習得し、簡単なマーケティングプランが作成できるようになる。 ・指導教員から与えられたテーマについて、調査、検証し、議論できるようになる。		
授業の概要	マーケティングは、単に商品・サービスの売り上げを最大化させるためだけの手法ではなく、さまざまな社会活動において重要な考え方である。 日常生活のなかで目にする実際のマーケティングの事例を検証しながら実践的に学ぶ。 担当教員は、これまで国内外の大手製薬会社で営業・営業企画・マーケティング(海外勤務含む)の各業務において管理職として従事した後、沖縄県内大手旅行会社でマーケティングの責任者として旅行業、レンタカー業の実務をおこなってきた。これらの経験も踏まえて、マーケティングの基礎について、具体的な事例も示しながらわかりやすく解説する。		
授業計画	第1回 ガイダンス 本講義の全体像、受講の心構え、成績評価、本講義の狙い、理解を深めるための説明をおこなう。 講義内容の全体像を把握するため、当ガイダンスで各講義の要点を概説する。 【事前学習】 日常生活の中で自分が気に入っているお店について、なぜ気に入っているのかをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第2回 マーケティング・ミックス(1) -マーケティングのSTPとは マーケティングの基礎的手法としてのマーケティング・ミックスについて、STPの視点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第3回 マーケティング・ミックス(2) -マーケティングの4Pと4Cとは マーケティングの基礎的手法としてのマーケティング・ミックスについて、4P・4Cの視点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第4回 マーケティング戦略(1) -マーケティングの歴史と変遷 マーケティング戦略の歴史、経緯、変遷について、具体的な事例を示しながら概観する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第5回 マーケティング戦略(2) -提供する商品・サービスの本質とは マーケティング戦略の本質、意義などについて、具体的な事例を示しながら概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)		

第 6 回	マーケティング戦略(3) -ライフサイクルマネジメントとは・PDCAとは 製品やサービスの価値の維持、延長についてライフサイクルマネジメントの観点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 7 回	ブランド戦略(1) -ブランドとは マーケティング戦略において重要なブランドについて、その基礎を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 8 回	ブランド戦略(2) -ブランド戦略を実践する企業・組織の事例研究 ブランド戦略について、国内外の事例を紹介し、その重要性を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 9 回	価格戦略 マーケティングにおける価格戦略について、具体的な事例、最近の事例などを紹介し、その重要性を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 1 0 回	商品・サービス開発戦略 商品やサービスを開発する際に留意すべき事項について、事例を紹介しながら概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 1 1 回	プロモーション戦略 多様化するプロモーションのあり方について、具体的な事例を紹介しながら、その重要性を概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 1 2 回	業種別マーケティングの事例(1) -製造業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、菓子(沖縄土産品)製造販売業の企業活動例を研究する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 1 3 回	業種別マーケティングの事例(2) -宿泊業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、宿泊業の企業活動例を研究する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)
第 1 4 回	業種別マーケティングの事例(3) -旅行業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、旅行業の企業活動例を研究する。

	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第15回 総括 これまでの講義で概説したさまざまなマーケティングの基礎事項をもとに、マーケティング戦略全体の構造を振り返り、総括する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第16回 期末試験 これまでの講義内容の理解状況を確認する。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 受講生はグループ別に課題を調査し報告をおこなう 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 事前課題でマーケティングに関する新聞記事を読む 3) ICTの活用 【○】 講義、グループ発表はパワーポイントを活用する
テキスト	テキストは使用しません。講義でレジュメ等を配布して予習・復習できるよう配慮します。
参考書	講義の際に必要な参考文献を紹介します。
評価方法	講義ノート(60%)、期末テスト(40%)によって総合的に評価する
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4 との関連】 【 】 DP 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】 DP 2. 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働すること 【○】 DP 3. 主体性をもって自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができること 【 】 DP 4. 基礎的な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、解決策を練ることができること
履修上の注意	身の回りで日々起こっている社会事象に関心を持って講義に臨んでください。 他の受講生の迷惑になるため、講義中の私語は厳禁とします。
オフィスアワー	水曜日(10:40～12:10)
課題に対するフィードバック方法	課題の結果について、教員から直接学生にフィードバックする

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	選択科目：大学共通科目（インターナショナル・ビジネス）
担当教員			
安部 潤			
授業形態：演習	ナンバリング：BUS460		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 ・職業・業務に関する情報を把握・研究するとともに就業体験により見識を高める。 ・職業や業務内容について情報収集し、研究するとともにインターンシップによる就業体験を通じて職業観を養う。 【到達目標】 ① 自己理解：就業体験を通じて、自身の適性や能力・スキルを考えることができるようになる ② 関心意欲：就業について関心を持ち、目標意識を高めることができるようになる ③ 思考判断：職業やその業務内容について、社会における役割や意義を理解できるようになる		
授業の概要	本科目では、夏休み期間中の約2週間、実際の会社に出向き就業体験(インターンシップ)をおこなう。実社会の就業の現場に出て、具体的な業務内容を知るとともに、自身の適性、能力、スキルを考え、視野を広げる。 担当教員は、これまで国内大手製薬会社および県内大手旅行会社において、経営企画、人材育成、採用面接、研修、インターンシップ生の受け入れなどの業務に携わっており、それら実務経験を活かし、受講生の理解を深める実践的なプログラムを提供する。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション(インターンシップの心構え) インターンシップは受入企業の協力なしでは成り立たないこと、受入企業は多忙な業務のなかインターンシップ生の受け入れのための準備、人員配置、コスト負担などを行っていることなど、インターンシップに関わる基本事項を理解する。 上記を踏まえ、本学の代表としてインターンシップ先で学ぶという心構えの重要性を理解する。 【事前学習】 シラバスを確認しておくこと(1時間) 【事後学習】 配布する資料「インターンシップの手引き」を確認すること(3時間) 第 2 回 インターンシップに係る事前指導、行動日程、希望先の相談・選定 学生の興味・関心、学習意欲の向上、多様化する学問分野に対応するため、さまざまな業種、職種の受け入れ先を検討し、学生の希望にふさわしい企業・機関等を提示する。 受け入れ先の業務内容と学生の専攻分野、希望の整合を確保し、選定作業をおこなう。 【事前学習】 インターンシップ授業全体の流れを把握しておくこと(2時間) 【事後学習】 関心のある企業を第三希望まで選定しておくこと(2時間) 第 3 回 先輩の経験談 昨年度インターンシップ授業を履修した先輩から実習内容、体験、後輩へのアドバイスなどについて講話の時間を設け、インターンシップの実際について理解を深める。 【事前学習】 大学のイントラネットにある先輩たちの実習レポートを読み、質問事項も考えておくこと(2時間) 【事後学習】 先輩の講話から得た情報をまとめること(2時間) 第 4 回 インターンシップ希望先(企業・機関)の選定 インターンシップ受け入れ先について、教職員のネットワーク、本学卒業生が在籍する企業、インターンシップ受け入れ実績のある企業、就職実績のある企業・機関などを紹介する。 また、学生が関心・興味を示し、かつ高い教育効果が見込まれる受け入れ先を新たに検討する。 【事前学習】 インターンシップ希望先の優先順位を決めておくこと(2時間) 【事後学習】 インターンシップ受け入れ先リストの企業情報を整理すること(2時間) 第 5 回 履歴書の作成準備 履歴書の各項目の記載方法や注意事項等を説明する。 【事前学習】 履歴書の各項目について、自分自身の情報を整理しておくこと(2時間) 【事後学習】 講義内容を踏まえて、履歴書に記載する内容を検討すること(2時間) 第 6 回 履歴書の作成 事前課題として作成した履歴書の内容を確認し、必要に応じて記載内容を修正する。 【事前学習】 履歴書を作成しておくこと(2時間) 【事後学習】 講義内容を踏まえて、記載内容を修正すること(2時間) 第 7 回 インターンシップ希望先の調査・研究 志望動機を記載する前の準備段階として、インターンシップ希望先の業界の現況、業務内容などを概説する。それぞれの希望先について、さらに深く理解するための調査方法を紹介する。		

	【事前学習】 インターンシップ希望先の事業内容、求められる人材像などを確認しておく(2時間) 【事後学習】 講義の内容を踏まえて、さまざまな視点でインターンシップ希望先の情報を整理しておくこと(2時間)
第 8 回	インターンシップ希望先の研究レポートの作成 指導教員が事前に用意した調査項目に対し、希望先の情報を整理し、レポートを作成する。 【事前学習】 インターンシップ希望先の情報を収集、整理し、レポートの下書きを作成しておく(2時間) 【事後学習】 講義の内容を踏まえて、研究レポートを完成させること(2時間)
第 9 回	インターンシップ希望先の研究レポートの発表 完成した研究レポートを、受講生全員の前で発表し、良い点を互いに確認する。 【事前学習】 完成したレポートを、発表できるよう準備しておくこと(2時間) 【事後学習】 発表会で得られた新たな情報を加え、研究レポートを完成させること(2時間)
第 10 回	インターンシップ志望理由書の作成 インターンシップの志望理由について、自身が目指すキャリア、自分自身の興味・関心事項、習得したい能力・スキルなどを整理し、記載する方法を解説する。 【事前学習】 志望動機、理由について考えておく(2時間) 【事後学習】 講義内容を踏まえて、志望理由書を作成すること(2時間)
第 11 回	企業実習の心得 就職活動に先立ちインターンシップ実習をおこなう意義や留意事項等について説明する。 【事前学習】 希望先に関する最新情報を、新聞、ニュースなどで確認し、わからないことや不安なことがあれば講義時に質問できるようメモしておく(2時間) 【事後学習】 講義内容を踏まえて、インターンシップ先の職場で求められる敬語やビジネスマナーなどについて確認、練習しておく(2時間)
第 12 回	申請書類の確認 インターンシップの申請に必要な各種書類の記載内容について最終確認する。 【事前学習】 申請書類等で必要な写真、印鑑、証明書類等を準備しておくこと(2時間) 【事後学習】 講義内容を踏まえて、記載内容(誤字・脱字含めて)を確認し、必要に応じて修正すること(2時間)
第 13 回	職場のマナー(1) -ビジネスマナーの基礎 基本的なビジネスマナー、業務遂行上の注意事項などを学ぶ。 【事前学習】 配布資料でビジネスマナーの内容を確認しておくこと(2時間) 【事後学習】 講義内容を踏まえて、業界特有の専門用語等を学んでおくこと(2時間)
第 14 回	職場のマナー(2) -ビジネスマナーの練習 業種別のビジネスマナーの注意点、業務上の基礎知識等を、実務経験者などから学び、職場環境へ適応するための準備をおこなう。 【事前学習】 配布資料の内容を確認しておくこと(2時間) 【事後学習】 講義内容を復習し、ビジネスマナー(言葉使い等)について練習しておく(2時間)
第 15 回	まとめ インターンシップ実習前の最終確認をおこなうとともに、不明な点、不安な点などについて質疑応答をおこなう。 【事前学習】 インターンシップ実習に際して、わからないこと、不安なことなどを整理し、質問のためのメモを作成しておくこと(2時間) 【事後学習】 これまでの講義内容、研究レポート、各種書類を振り返り、再確認しておくこと(2時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	授業中に提示、あるいはプリントを逐次配布する
参考書	JOB HUNTING GUIDE BOOK 沖縄キリスト教学院大学
評価方法	各種申請資料の提出期限遵守(20%)・実習レポートの内容(40%)・インターンシップ先による評価(40%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4 との関連】 【 】 DP 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】 DP 2. 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働すること 【○】 DP 3. 主体性をもって自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができること 【○】 DP 4. 基礎的な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、解決策を練ることができること
履修上の注意	社会人としての基礎(マナー・時間厳守・提出期限厳守等)を重視するカリキュラムであることを理解したうえで履修してください。
オフィスアワー	水曜日(10:40～12:10)
課題に対するフィードバック方法	授業時に随時質問を受け付ける。 必要に応じて、事前アポにより個別相談・指導をおこなう。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (0-2)	選択科目：学科専門基礎科目（キャリアビジネス領域）
担当教員			
石原 修			
授業形態：演習	ナンバリング：BUS381		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	地域社会や途上国で起こる課題を我がこととして考え、社会に出ると強く求められる課題解決能力の育成を図る。 知識理解：様々な地域で行われている取り組み手法を学び、当事者として考える基礎をつくる。 思考・判断：地域社会課題に対し、何を大切にするのか。どのような役割を果たすのか？自らの基軸となるものを創成する。 技能・表現：様々な課題に向けて他者と話し合い解決方法を提案できる。 態度：学生自ら調査し、考え、話し合っ、お互いが学び合うことが出来る。
授業の概要	このコロナ禍で様々な地域課題・社会課題がより一層顕在化しつつある。担当教員が勤める協同組合でも地域・社会課題に向き合う姿勢が求められ、その協同組合国際原則の中にも「地域社会への貢献」が謳われている。 そのため、県内や国内で20余の市町村と地域課題解決プロジェクトを立ち上げ、行政や学校現場、地域の生産団体などとチームを編成し、地域課題に向き合ってきた担当教員が、その根幹となるチーム作りや大切にすべき考え、課題解決へのアプローチ方法などについて一緒に考える。 また、現在は2013年より、ラオス国で協同組合を立ち上げ、貧困問題解消や女性の活躍の場づくり、産業育成などを目的としたプロジェクトのリーダーとして活動しているが、その手法は現地と一緒に考えて、その地域の持続可能性を大切に解決方法を模索し続けている。その実践を通じた情報・学びをタイムリーに提供し、この間培ってきた経験やネットワークを活かし、第一線で活躍しているゲストスピーカーと共に、現場でのエピソード・実践事例を基にした授業を展開する。 近年は国連機関であるILO（国際労働機関）との連携でラオスでの協同組合設立を行っており、第一線で活動している内容を知ることが出来る。 国連職員やJICA or海外青年開発協力隊職員を講師として招き、海外での活動に興味を持ってもらえるよう取り組んでいる。
授業計画	第1回 地域と国際開発のねらい 1. 授業のガイダンス ・流れ、学生に求められること、評価等 ・「開発」という言葉を聞いてイメージすること ・地域と国際開発、この開発という言葉の持つ意味について 2. 授業内容 - 国際開発において大切にしている内発的発展について考える。 ①進め方 - NHKテレビ番組で放送された30分番組「実感報道 どどど ラオスプロジェクト」のビデオを見て、質問内容をまとめ、講師、ゲストスピーカーとの質疑応答を行う。 - スピーカー 前年度、ラオスを訪問した学生とのクロストークの実施。 【事前学習】なし 【事後学習】(2h) 第2回 なぜ協同組合が必要だったか？ なぜ、ラオス国は協同組合設立に向けて動き出したか？ * 一帯一路政策のNHKビデオ * コープのフェーズ2の取り組み ① 3つの新たな協同組合の立ち上げ ・ 複数を立ち上げることで切磋琢磨し合う関係構築で持続可能な協同組合をつくる ② 美らラオ協同組合のレベルアップ 【事前学習】中国の一帯一路とラオスについて調べる(2h) 【事後学習】授業の振り返り、気になったことを調べる(2h) 第3回 プロジェクトを進める上で大切な考え方 困難な仕事もパートナーシップに基づく推進があれば可能にしていく。 ラオス国との信頼関係構築に影響を与えた事例を通して考える。 ① 学校建設 ② フェアトレード貿易・協同組合間貿易 ③ 女性を中心とした協同組合運営ジェンダー問題 ④ 第2回目 ねらい（仮称 国際開発や協同組合が本来大切にしている「平等、公平、公正、対等」の考え方を学び、『地域と国際開発』の理解を促進する ⑤（搾取の論理、行き過ぎた資本の論理とは異なった協同組合の考え方を共に学ぶ） 【事前学習】最も共感できる日本の団体の外国でのプロジェクトを調べる(2h) 【事後学習】(2h)

第4回	コーヒー栽培と組合設立 ラオスでのコーヒー栽培。 組合設立と産業化に向けての実践事例報告とワークショップ 【事前学習】 動画閲覧 【事後学習】 (3h)
第5回	途上国でのコーヒー栽培の状況から、先進国で商品化されるまでの経済の流れを学ぶ。 利益の源泉や貧困の要因などについて考える。 日本と社会主義国のラオスの違いを対比して考える メインテーマ：なぜ学ぶのか？ サブテーマ：社会主義国のラオスと対比して学ぶ・考える 複数の写真から考えさせる。(設問と写真選定が重要) (序列の写真、2000坪の土地を整地した写真) 工場で働く女性の半数以上が文字の読み書きが出来ない→搾取されやすい ①社会主義国と日本の民主主義 ②教育制度(話合いが出来ない。少数民族、可能性を考える。) ③アタプー県との実践を通して 【事前学習】 日本と社会主義国の違いを対比して考える。ポイントを列挙する。(2h) 【事後学習】 (3h)
第6回	国際開発最先端の現場で起こる事について考える JICA or海外青年開発協力隊職員による講義及び意見交換。 【事前学習】 (2h) 【事後学習】 (4h)
第7回	離島での実践事例を考える(持続可能な離島とは) ①北大東島：ぼてちゅうの商品化と農副連携 ②宮古島：パートナーシップによる漁協再生 ③伊江島：観光とリンクした商品開発 【事前学習】 離島の課題を調べる(2h) 【事後学習】 (3h)
第8回	国連機関であるILO(国際労働機関)職員による講義 2024年度より実施。 リモートにて国連職員による国連の業務内容と目指しているものをレクチャー。 その後、質疑応答を行う。 【事前学習】 【事後学習】 (1h)
第9回	恩納村・大宜味村の実践事例に学ぶ シークワサー酢、いぎみだし、クワサーCUP 学生の当事者性・主体性を養うことがねらい 【事前学習】 総合学習について調べる(2h) 【事後学習】 (1h)
第10回	黒糖問題・離島問題を考える 1. ゲストスピーカーによる現状理解 ①伊平屋村役場職員によるサトウキビと離島の暮らし ②JA職員(浜門氏)による黒糖在庫問題と島や産業に与える影響 【事前学習】 なぜ離島では黒糖が重要かを考える(2h) 【事後学習】 (2h)
第11回	課題解決に向けてのチームづくりと具現化策の組み立て 【事前学習】 (2h) 【事後学習】 (2h)
第12回	問題解決に向けてのプランニング① グループワークで地域課題・社会課題の解決手法を考える。 パワーポイントや動画などのプレゼン資料を作成する。 【事前学習】 (2h) 【事後学習】 (2h)
第13回	伊平屋村/JAへのプレゼン 伊平屋村役場職員及びJA職員による離島問題を学ぶ。 産業育成や教育など離島の抱える問題を一緒に考える。

	【事前学習】 動画、パワーポイントの準備 (2h) 【事後学習】 現地（行政・住民）との意見交換 (2h) 第14回 伊平屋島の事例：東大塾 獲得目標：離島の持続性について自らの仮説を立てる ・日本の人口推移と離島の人口推移の比較 ・産業構造の違い ワークショップのテーマ 1-1. なぜ離島は人口が減っていくのか？ 1-2. 人口が少ないことで起こる影響 2-1. なぜ離島では産業が起ころづらいのか？ 2-2. 都市部と海を隔てる（距離が遠い）と起こる問題は？ 【事前学習】 プレゼンをしての振り返り (2h) 【事後学習】 (2h) 第15回 授業全体のまとめ 解決したい課題ををあげ、その具体化策を作成する。 【事前学習】 この講義の振り返り (2h) 【事後学習】 (2h)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワークを含む 2) 情報リテラシーに関する科目【○】 情報を収集し、読み解く力を身につける 3) ICTの活用【○】 4) 初年次教育【○】 5) 実践的PBL【○】 地域課題に向き合い、課題解決に向けた実地研修
テキスト	パワポによる説明と積極的にワークショップを活用している 適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示するが特定のものを定めない
評価方法	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 ・授業内発言、レポート課題取り組み (20%) ・授業後の振り返りシート添削 (30%) ・レポート添削 (25%) ・グループ内の活動状況 (25%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 89点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 78点～89点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 67点～78点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 56点～67点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 56点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマの通しです 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い（採点・評価後）返却する

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3-4 年次	2単位 (0-2)	選択科目：学科専門応用科目（沖縄・グローバル研究領域）
担当教員			
串間 武志			
授業形態：演習	ナンバリング：GRE368		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	NGO・NPOの理論を学び、社会課題に取り組む仕組みを学ぶ。 知識理解：狭義～広義のNPO・NGO、市民活動、非営利活動組織を知ることができる。 思考・判断：非営利組織が取り組む社会的課題と、その使命を学ぶことができる。 技能・表現：本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで調査研究を行うことができる。 意欲関心：NGO・NPO活動の社会的使命解決の活動内容を報告できる。 態度：NGO・NPOの活動に共感し、学んだことを周りに還元することができる。		
授業の概要	国際協力についての実務経験が豊富な担当教員が、その経験を活かし、NGO・NPOの理論と方法に関わる様々な事柄、課題について、具体的な事例を提供し、解説する。 受講者は、海外ボランティアや国際協力を目指すにあたって必要な手法を具体的に学び、自らのキャリア形成に活かすことができるとともに、沖縄からSDGsに取り組んでいるNGOや企業の事例を学ぶことで、沖縄と国際社会をつなぐ地球市民としてグローバルな社会貢献への考え方を備えることができる。		
授業計画	第1回 相互理解を図る 【導入】 (1) ガイダンス（授業の進め方、評価方法、前期に目指すゴール） (2) チームビルディングワークショップ (3) リーダー、サブリーダーの選出 【事前学習】 NPO・NGOに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】 本講義の予習(2h) 第2回 地域社会における公共 【概論】 (1) 公共の担い手が誰か (2) NPOについて (3) NPOの収益構造 (4) 収益構造に関する演習 【事前学習】 本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】 本講義の復習(2h) 第3回 国際協力とNGO 【概論】 (1) 国際協力・ODA・JICAとNGO (2) 国際協力分野のキャリアパス ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】 本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】 本講義の復習(2h) 第4回 NGOの使命 【概論】 (1) NGOを取り巻く環境 (2) NGOのタイプ (3) NGOのミッション・ビジョン・中期計画 (4) 講義：SDGs実現に向けたパートナーシップについて ～おきなわ国際協力プラットフォーム（OIC-PF）～ ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】 本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】 本講義の復習(2h) 第5回 県内で活躍するNGOの活動・ケーススタディ 【実例】 (1) 環境 (2) アフリカでの国際協力 ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】 本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】 本講義の復習(2h) 第6回 県内で活躍するNGOの活動・ケーススタディ 【実例】 (1) 平和構築 (2) カンボジア・東ティモールでの国際協力		

	※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】本講義の復習(2h) 県内で活躍するNGOの活動・ケーススタディ 【実例】 (1) 途上国開発支援 (2) ソロモンでの国際協力 ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】本講義の復習(2h) 県内で活躍する企業の活動・ケーススタディ 【実例】 (1) 持続可能なたまごの話 (2) ブータンにおける国際協力 ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】本講義の復習(2h) 県内で活躍する企業の活動・ケーススタディ 【実例】 (1) 途上国開発支援 (2) ソロモンでの国際協力 ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】本講義の復習(2h) 県内で活躍する企業の活動・ケーススタディ 【実例】 (1) SDGs と観光産業 (2) 沖縄の観光産業のSDGs ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】本講義の復習(2h) 県内で活躍する企業の活動・ケーススタディ 【実例】 (1) 県内SDGs紹介サイト「Be Kind Okinawa」の取り組み (2) Be Kind Okinawa の掲載記事を作成してみよう！ ※テーマは変更の可能性あり 【事前学習】本講義のテーマに関して、新聞、書籍、ネット情報収集を行う(2h) 【事後学習】本講義の復習(2h) 課題解決の手法と実践 【手法】 (1) PCM研修(解説、課題抽出、カテゴライズ) (2) PCM研修(解説、問題分析、目的分析) (3) 本日の成果の発表 【事前学習】前回出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) 【事後学習】本日出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) 課題解決の手法と実践 【手法】 (1) PCM研修(アプローチの設定、プロジェクト選択、関係者分析、PDMの解説) (2) 選択したプロジェクトの発表 【事前学習】前回出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) 【事後学習】本日出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) プロジェクトの計画・立案 【手法】 (1) プロジェクトを計画・立案する (2) 計画したプロジェクト案の発表 【事前学習】前回出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) 【事後学習】本日出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) プロジェクトの発表 【手法】 (1) 計画したプロジェクト案の審査 (2) プロジェクト案発表 【事前学習】前回出されたプロジェクトに関する情報収集を行う(2h) 【事後学習】プロジェクトに関するプレゼンテーションを完成させる(2h)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワークを含む

	2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 情報を収集し、読み解く力を身につける 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】 5) 実践的P B L 【○】 地域課題に向き合い、課題解決に向けた実習型研修
テキスト	特になし
参考書	日々の新聞およびニュース等
評価方法	・授業内発言、課題取り組み（20%） ・授業内グループ内の活動状況（20%） ・成果発表の状況（30%） ・授業後の成果物（プロジェクトレポート等）（30%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 89点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 78点～89点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 67点～78点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 56点～67点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 56点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【 】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	グループワークを多用する。受講生の主体性の発揮が期待される。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	授業後に、課題の評価を行う

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	教職科目（必修科目）
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC310		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、以下の内容を到達目標とする。①中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領について理解している。②中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。③学習指導要領の「3つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。④小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領や教科用図書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。⑤英語の音声及び文字に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑥語彙・表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑦英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑧ALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑨生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。⑩観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。⑪言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。⑫第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。
授業の概要	教育とは何かという本質的な問題提起を通して、英語科教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、学習指導要領や英語教授法の変遷について考察する。また、英語教育に関わる諸課題を広く取り上げながら現状理解を図り、日本の英語科教育の方向性について議論を深める。さらに、英語授業運営と評価方法についても基礎的知識の理解を深める。10年間、高等学校における教員経験のある者が、その実務経験を活かし、「英語科教育法Ⅰ」を構成する①第二言語習得研究の知見やそれに基づく教授理論（理論に関する内容）②技能統合型の授業計画・授業実践・評価方法（実践方法等）について講義する。
授業計画	第1回 講義概要説明／学校英語教育の目的－英語教育と英語科教育 全15回の講義計画について概要を説明するとともに、課題や評価の方法についても確認する。さらに、英語教育と英語科教育の違いに触れ、学校における英語教育の目的について議論し理解を深める。 【事前学習】これまでに受けた英語教育を振り返るとともに英語を学ぶ意義や目的について考える。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間) 第2回 日本の英語教育と世界の言語教育観－グローバル化社会における英語教育 日本の英語教育の歴史と諸外国の言語教育について取り上げ、グローバル化が進展する今日において、英語教育のあるべき姿、目指すべき方向性について議論し、理解を深める。 【事前学習】授業前に配布した資料を読み、概要を理解する。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間) 第3回 教師論－学び続け成長する英語教師を目指して 英語教師に不可欠な資質・能力について意見を共有し、目指すべき教師像について理解を深める。さらに、ポートフォリオを作成・記入し、教師力の向上を目指して一歩を踏み出す。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp.56-65）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間) 第4回 学習者論（1）－信念・学習スタイル・学習ストラテジー・動機づけ・自律 学習者要因の中で、英語習得に影響を及ぼす主要な要因について取り上げ、理解を深める。また、学習ストラテジーに関する質問紙に実際に回答し、各自の学習ストラテジーについて客観的データに基づいて把握する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.43-55）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間) 第5回 学習者論（2）－生徒の特性や習熟度に応じた指導 前時のテーマを発展させ、実際の教室現場でどのように学習者要因を踏まえ効果的な指導を行うかについて議論し、個に応じた指導の可能性を探る。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.43-55）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間) 第6回 第一言語習得と第二言語習得－理論から応用へ 第一言語習得と第二言語習得における理論的側面を概観し、共通点や相違点について理解する。また、それらの知見を踏まえ、効果的な英語教育の在り方を考究する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章（pp.34-42）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)

第7回	言語習得と英語教授法－英語でのインタラクショナル 英語教授法の理論的背景について理解を深める。また、英語教授法の歴史的変遷についても触れ、これまでの英語教育の課題や現状を理解し、より効果的な教授法について議論を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第3章 (pp. 34-42) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第8回	英語教育課程－学習指導要領・教科用図書・目標設定と指導計画 学習指導要領の内容を比較し、中高における外国語「英語」の目標及び指導の在り方について理解を深める。実際に教科用図書を参照し、目標設定・指導計画の留意点について確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 24-33) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第9回	英語教育における小中連携と中高接続－現状と課題 小学校における英語教科化、大学入試改革など、英語教育改革の動向を踏まえ、小中校それぞれの校種における英語教育の現状や課題、校種間の連携の可能性と留意点について理解を深める。 【事前学習】授業前に配布資料を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第10回	教室の使用言語－Classroom Englishの活用 「英語の授業は英語で」の意義を理解すると同時に、現状や課題についても考察する。また、英語の使い手としての英語教師の役割についても確認する。同時に、教室英語(教授用英語)の実践についても、具体例を示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第11回	授業の形態－生徒中心の学習・ALTとのチームティーチング 一斉授業と個別指導のメリット・デメリット、また教師中心の学習と生徒中心の学習のメリット・デメリットについても比較分析し、効果的な授業の在り方について議論し理解を深める。また、効果的なチームティーチングを行う上での留意点についても確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第12回	測定と評価－評価の意義と役割・観点別評価・パフォーマンス評価 評価の意義と役割について、授業運営、学習効果、学習者の動機づけとも関連づけながら理解を深める。また、観点別評価やパフォーマンス評価についても、具体例を示しながら、その可能性や課題について議論する。 【事前学習】授業前にテキスト第17章 (pp. 202-213) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第13回	音声と文字の指導－基本的特性・音声と文字による技能統合型活動 音声と文字の指導について、それぞれの基本的特性に照らして、考究する。また、学習者の熟達度や学習スタイルとも関連付けながら、効果的な指導の在り方について議論を深める。 【事前学習】授業前に配布資料を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第14回	語彙・表現に関する指導－受容語彙と発表語彙・意図的学習と偶発的学習 受容語彙と発表語彙の違いを踏まえ指導することの意義について確認する。また、意図的学習と偶発的学習についてもそれぞれの特性や相違点を確認し、効果的な語彙習得に資する指導の在り方・学習方法について議論し理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第12章 (pp. 140-148) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
第15回	まとめ これまで学んだテーマの中からいくつかを取り上げ、グループに分かれて意見を交わし発表する。全体で多様な意見を共有することで理解の深化を図る。 【事前学習】これまでに配布した資料や振り返りレポートを見直ししておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【】 5) 実践的PBL 【】
テキスト	「行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－」(JACET教育問題研究会 編、三修社)
参考書	「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」(文部科学省) 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(文部科学省) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」(国立教育政策研究所教育課

	程研究センター、教育出版、2012年)
評価方法	Take-home Exam (60%)、振返りシート (30%)、授業への貢献度 (10%) 等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 テキストとともに課題図書が指定される。 2 予習を前提として講義を行う。
オフィスアワー	水曜日 3 限目 (13:00-14:30) 大城研究室 (西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	1) 課題 (Take-home Examや振返りシート) を評価・採点し、返却する。2) 有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

講義科目名称： 観光学概論（観光文化学科専門科目）

授業コード： 6029A 6029B

英文科目名称： Introduction to Tourism

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (2-0)	必修科目：学科専門基礎観光文化科目
担当教員			
上地 恵龍			
授業形態：講義	ナンバリング：TCC 101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 受講者が観光を身近に感じられるような具体的な観光対象や観光地について、事例研究を中心に学ぶ。 【到達目標】 観光の歴史の紹介、観光と地域文化資源との関連性を学び、観光消費における地域経済活性化の重要性について認識することができる。さらに、成熟化社会に向けて観光と観光地の有り方について考えることができる。		
授業の概要	観光学概論の授業をとおして観光とは何か、観光にかかわる様々な事柄など基本的な事項について学習しながら、自分たちにとって身近な生活の中の観光の事例も合わせて学ぶ。 担当教員は（株）JAL ホテルズ専務取締役として観光産業での実務経験を活かし、国立大学観光産業科学部設置への参画や沖縄観光振興計画等行政政策立案に関わってきた。これまで数多くの観光専門人材の育成に携わった教員が、沖縄観光の現状、課題と展望について体系的に教授し、観光学の意義と概念の理解を深める講義を行う。		
授業計画	第1回	世界の観光の動向と沖縄の観光の現状 世界の国際観光の歴史的変遷と沖縄の観光現状の外国人観光客誘致、受け入れ（インバウンド政策）などについて学習する。 【事前学習】 シラバスを確認し、授業内容の流れを理解する。（2時間） 【事後学習】 1. 【2024年最新】 訪日外国人観光客数の国別ランキング https://elemminist.com/article/3842 2. 令和5年度 沖縄県入域観光客統計概況 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/026/300/r5nenndo-matome1.pdf 3. 沖縄の観光客数の回復状況と今後の課題 https://www5.cao.go.jp/keizai3/shihyo/2024/0315/1337.pdf	
	第2回	上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（3時間） 観光の概念とニューツーリズムの定義 観光とは、日常生活圏を離れた環境での行動で、鑑賞・知識・体験・活動・休養・参加・精神の鼓舞などを目的とする生活に変化を求めるレクリエーションといえる。第2回では、世界的な社会経済の発展・変化に照応した新しいツーリズムの概念についても学習する。 【事前学習】 ニューツーリズムとは？ メリットとデメリット （2時間） https://spaceshipearth.jp/newtourism/ 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。	
	第3回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 文化と観光について 文化と観光の概念が時代とともに変化していることの理解からはじめる。観光と文化は、文化財保護の視点から対立関係にあるという立場があり、一方では、積極的に文化資源を地域活性化のために観光資源として活用しようという立場があるという議論について考える。 【事前学習】 ニューツーリズムとしての文化観光 岐阜女子大学 文化創造学部文化創造学科 富本真理子先生 https://gijodai.jp/library/file/kiyo2016/2016-07Tomimoto.pdf 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（3時間）	
	第4回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 産業と観光について	

	産業観光の概念について。現在、産業観光の範疇に入るものとして、「体験観光（伝統工芸体験、農林漁業体験等）」、「ヘリテージツーリズム（産業遺産観光）」、「テクニカルビジット（視察・工場見学）」などについて学習する 【事前学習】 産業観光ガイド（公益社団法人日本観光振興協会） https://www.nihon-kankou.or.jp/sangyou/about/index.html 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（3時間） 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 「和食」ユネスコの無形文化遺産について グローバリゼーションの影響により産業的にも文化的にも和食の衰退が叫ばれる中で、UNESCOという権威ある機関によって和食の価値が認められたことにより、日本人自身の和食への評価も変わった。今や世界中から注目の的で、日本食の記事が取り上げられ、来日観光の大きな目的となった。 【事前学習】 世界的に注目される「和食」の無形文化遺産に登録された理由と特徴 https://www.kobayashi-foods.co.jp/washoku-no-umami/sekaisan-wasyoku 和食ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念 インタビュー動画 https://www.youtube.com/watch?v=f1aJ9aM5Ccc 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（3時間）
第5回	
第6回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 観光と食文化・食習慣の対応 インバウンドの受入体制の中で多様な食文化・食習慣を有する外国人客への対応について考え、その受入体制について事例を通して学ぶ。 【事前学習】 沖縄ムスリム旅行者おもてなしハンドブック https://www.okireci.net/muslim/ 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（2時間）
第7回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 観光と地域の活性化（食の魅力の発信）その1 事例紹介を通してより理解を深める。 【事前学習】 食文化と観光（大阪府立大学観光産業戦略研究所 客員研究員 尾家 建生） https://www.kkr.mlit.go.jp/kokudokeikaku/program/data/2014/hanayaka/pdf/foodtour.pdf 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（2時間）
第8回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 観光と地域の活性化（食の魅力の発信）その2 事例紹介を通してより理解を深める。 【事前学習】 食文化を核とした観光的な魅力度向上による 地域活性化調査報告書（国土施策創発調査）pp.9-20（食と観光の連携による地域活性化への期待） http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/souhatu/h17seika/2shokubunka/02_syu_01hokokusho.pdf 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。（2時間）
第9回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。（2時間） 観光とリゾートウエディング 現在国内外に発信する有力な観光ブランドの一つとして沖縄リゾートウエディングの誘致を促進する取り組みについて考察する。 【事前学習】 令和5年沖縄リゾートウエディング（沖縄県） https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/011/805/kappurutoukeityousakouhyoude-ta.pdf

第10回	上記の内容について調べ、授業の理解を深める。 (2時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。 (2時間) B級グルメと地域活性化 B級グルメの定義を理解し、日本国内のご当地グルメの生成と発展の歴史について検証する。
第11回	【事前学習】 地域資源としての「B級グルメ」に注目して http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/takita.pdf 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。 (2時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。 (2時間) 駅弁~地域活性化 外国人観光客の旅行目的で最も多いのは「日本食を食べること」、2位が「自然・景勝地観光」、3位が「ショッピング」、4位が「テーマパーク」、5位が「日本の歴史・伝統文化体験」となっている。今後も外国人観光客が増えることが予想される中、地域の食文化戦略について解説する。 【事前学習】 駅弁付加価値の実証研究による考察 http://www.isc.meiji.ac.jp/~w_zemi/ekiben.pdf
第12回	上記の内容について調べ、授業の理解を深める。 (3時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。 (2時間) 観光とスポーツ (スポーツツーリズム) スポーツツーリズムの最近の動向や、2020年に向けた取組について紹介し、その波及経済効果を学習する。 【事前学習】 情報を収集し、授業の理解度を深めるように学習する。 (2時間) 沖縄観光におけるスポーツ・ツーリズムの現状と課題 (東邦学誌 杉谷 正次) https://www.aichi-toho.ac.jp/wp-content/uploads/2016/07/201212004102_03.pdf
第13回	【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。 (2時間) 観光と映画 (フィルムツーリズム) 動画やテレビ番組の舞台となった地域は多くの観光客を集めている。観光地化を視野に入れた自治体のロケ地誘致や、映画の撮影地を名所として残すといった動きや経済効果について分析する。 【事前学習】 ロケ受入の手引き (沖縄県OCVB沖縄フィルムオフィス) https://filmoffice.ocvb.or.jp/
第14回	上記の内容について調べ、授業の理解を深める。 (3時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。 (2時間) 観光とMICE (ビジネスリゾート地の発信) ホテルなど民間事業者が積極的にMICE需要を取り込むことで経営の安定化につながる。メリットについて学習する。主催者等の質の高いニーズに応じたコンテンツ開発など新たな顧客層を獲得する取組が結果として、沖縄観光の質の向上につながることを理解する。 【事前学習】 沖縄のMICE振興戦略 (第1章) MICE振興の意義 https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/020/398/01_okinawamiceshinkousennryaku.pdf
第15回	上記の内容について調べ、授業の理解を深める。 (2時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。 (2時間) 沖縄とハワイとの観光比較 「ハワイは世界的なリゾート地を目指す沖縄のお手本」。沖縄とハワイの歴史・文化の相違や観光政策の違いについて学習する。 【事前学習】 1. ハワイ州、オーバーツーリズムを繰り返さない

	https://www.travelvoice.jp/20221119-152419 2. 沖縄観光の現状と課題 pp.12-14 (内閣府 沖縄総合事務局) http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki_kankoushinkou/H30_1bu.pdf?la=ja-JP&hash=075A116923BC24A6C7749F5DE53C67BCB1CCAD2C 上記の内容について調べ、授業の理解を深める。(4時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容をまとめ、ノートにまとめること。(2時間) まとめ・期末テスト
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	テキスト：観光概論 共著 今井成男・大庭秀雄・捧富雄 編集・発行 (株) ジェイティービービ能力開発
参考書	観光ビジネスの新潮流 千葉千恵子 中央出版社 ISBN-13: 978-4761525057
評価方法	授業内容の理解度の確認について ・各回授業の復習ノート提出による評価 10回 x 5点 (合計50点) ・期中テスト 25点 期末テスト 25点
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている。 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している。 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している。 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している。 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない。 欠 (K) —：出席不足。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】 1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【○】 2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【○】 3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【○】 4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	日本のインバウンド観光戦略および沖縄観光の将来性に関心を持ち、持続可能な観光における問題意識と解決の意欲を持つ皆さんの受講を期待する。
オフィスアワー	水曜日 金曜日 11:00-12:45 上地研究室 西2-9 事後学習のレポートは次回の授業時に提出する
課題に対するフィードバック方法	授業についてのふり返し、思ったこと、疑問等を授業中に随時受け付け、教員へアポを取り、直接説明することも対応する。復習レポートは提出した翌週にフィードバックを行う。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門基礎観光文化科目
担当教員			
平野 典男			
授業形態：講義	ナンバリング：TCC 103		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】観光は持続可能な開発を実現するために積極的に貢献できる経済分野の1つとして位置付けられており、特に、SDGsの17の目標のうち、目標8、12、14については、観光分野に対する期待が極めて大きい。また、近年観光ビジネスにおいて、SDGsは新たな商機としてとらえるべきとの認識が広まり、そのフレームを通じて様々な取り組みが進められるようになってきている。このような認識のもと、本授業では、SDGsの基礎知識や、SDGsと観光の関わり、観光分野におけるSDGs達成に向けての具体的取り組みなどをテーマに考察を進める。 【到達目標】 (1) 持続可能な観光の理論的な枠組みや、その実現に向けての課題について理解し、解決策を考えることができる。(DP1・DP4対応) (2) 観光ビジネスの実践の場におけるSDGsへの具体的取り組みを知ることができる。(DP1対応) (3) 自分の考えを的確に表現し、グループのメンバーと協調して意見を交換することができる。(DP2・DP3対応)		
授業の概要	持続可能な開発、またその下位概念である持続可能な観光の基本的な知識について説明する。また、観光と特に関わりの深いSDGsの目標について、現在、国や自治体、企業などがどのように取り組んでいるか具体的な事例を紹介する。また、授業のテーマについてより深い理解や気づきが得られるよう、学生同士のディスカッションやカードゲーム等を行う。 担当教員は航空会社、ホテル会社での勤務経験(環境監査等の業務を含む)や、2030SDGsゲーム公認ファシリテーターとしてのファシリテーション経験を踏まえ、具体的な事例を提示しながら受講者が理解を深められるように講義を行う。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、近代ツーリズムの発展 ・シラバス内容の説明や毎回授業で提出する「要点をまとめるノート」の記載方法等の説明を行う。 ・第5回、第6回(2030SDGsゲーム)はグループ分けし、グループごとに連続3時間で行うので、日程調整を行う。 ・観光とTourismの語源と定義、歴史、近代ツーリズムの特色などを概観する。 【事前学習】シラバスをよく読み、気になる用語や内容があれば調べておくこと(2時間) 【事後学習】講義資料に基づき、観光の定義や近代ツーリズムの特色について復習しておくこと。(2時間) 第2回 マスツーリズムの登場とその課題 ・近代ツーリズムの発展過程のなかで登場したマスツーリズムの特徴と、マスツーリズムがもたらす環境面、社会面、経済面における弊害について概観する。 【事前学習】マスツーリズムという言葉の意味や課題を自身で調べておくこと(2時間) 【事後学習】講義資料に基づき、マスツーリズムがもたらす問題点について復習しておくこと。(2時間) 第3回 事例研究 ハワイの観光開発と観光の負の側面 ・マスツーリズムの発展とその弊害に関する具体的事例として、ハワイを取り上げ、ハワイとハワイ観光の発展の歴史や、観光の発展によってもたらされた環境、社会、経済面での弊害について考察する。 ・また、その弊害を是正するために現在ハワイ当局が取り組んでいるレスポンシブルツーリズムの概念や、観光戦略プランなどについて学ぶ。 【事前学習】ハワイの地理や歴史、観光の特色について自身で調べておくこと。(2時間) 【事後学習】ハワイの西洋化と不可分に結びついた観光の歴史やその弊害について自身の考えを整理しておくこと。(2時間) 第4回 グループディスカッション 沖縄観光の正と負の側面 ・前回学んだハワイの事例を参考に、沖縄における観光の正と負の側面についてグループディスカッションを行い、観光に対する認識を深めたり、気づきを得たりする。 【事前学習】観光や観光客によって自身やその周りの人が不満や迷惑に感じていることがないか考えておくこと。(2時間) 【事後学習】ディスカッションを通して、自身が考える観光の良い点、悪い点を整理しておくこと。(2時間) 第5・6回 2030SDGsゲーム ・グループ分けし、グループ毎に日時を設定し、3時間連続して実施する。 ・カードゲームを通じて、なぜ、私たちの世界にSDGsが必要なのか、SDGsがあることによって、私たちの生活や企業のビジネス活動がどんな風に変わり得るのか、どんな可能性が生まれるのかを体感的に理解し、気づきを得る。 【事前学習】これまでに、自身がSDGsについて知っていること、SDGs実現に向けて行動		

	してきたことがあれば、自身の言葉で語れるよう整理しておくこと。（４時間） 【事後学習】ゲーム体験を振り返り、自身の感想や気づきをノートにまとめ、翌週の授業で提出すること。（４時間）
第 7 回	地球環境問題、南北問題と国際社会の取り組み ・地球環境問題や南北問題の具体的な事象を取りあげたうえで、その解決に向けてこれまで国際社会がどのように取り組んできたのかを考察する。 【事前学習】南北問題とは何か、自身で調べておくこと。（２時間） 【事後学習】講義資料を基に、国際社会の取り組みについて時系列的に整理しておくこと。（２時間）
第 8 回	SDG s とサステナブルツーリズムの概要 ・国際社会の、地球環境問題に対する取り組みと、南北問題に対する取り組みが収斂しSDG s に結実していく過程や、持続可能な開発の下位概念であるサステナブルツーリズムの内容、観光がなしうるSDG s 実現に向けての貢献について考察する。 【事前学習】サステナブルツーリズムとはどのような観光なのか、またエコツーリズムとどう違うのか、自身で調べておくこと。（２時間） 【事後学習】持続可能な開発と持続可能な観光との関係性について整理しておくこと。（２時間）
第 9 回	事例研究（目標 8） サウスウエスト航空の従業員第一主義 ・SDG s の目標 8 「働きがいも経済成長も」について、観光が貢献できることの事例としてLCC（格安航空会社）の元祖といわれるサウスウエスト航空の事例を取り上げ、働きがいとを好業績を生み出すサービスプロフィットチェーンの仕組みについて考察する。 【事前学習】LCC（格安航空会社）のビジネスモデルについて自身で調べておくこと。（２時間） 【事後学習】サウスウエスト航空以外の、目標 8 に対する観光の貢献事例について調べてみる。（２時間）
第10回	事例研究（目標12） 徳島県上勝町のゼロ・ウェイスト運動 ・SDG s の目標 1 2 「つくる責任、つかう責任」について、観光が貢献できることの事例として、徳島県上勝町がゼロ・ウェイストをコンセプトとしたさまざまな取り組みにより、交流人口、関係人口の増加に繋がっていることを取り上げる。 【事前学習】つかう責任について、自身がどのような取り組みができるか考えてみる。（２時間） 【事後学習】目標 1 2 について国や自治体、企業がどんな取り組みを進めているか、いくつか事例を調べてみる。（２時間）
第11回	事例研究 沖縄県における取り組み事例 食資源循環（ゲストスピーカー） 沖縄県における食資源循環の仕組みを確立しようとする産学官の取り組み「フード・トランスフォーメーション」について琉球大学農学部よりゲストスピーカーを迎え、食品残渣を最大限回収・飼料化・エネルギー化するシステムと、観光がこのシステムにおいて担う役割について学ぶ。 【事前学習】食品ロスを減らすための取り組みについて自身で調べておくこと。（２時間） 【事後学習】SDG s の実現に向けて、地域が共創することの必要性について考えること。（２時間）
第12回	ホテル日航アリビラ見学（現地集合・現地解散） ・沖縄県読谷村にあるホテル日航アリビラを訪問し、中水利用や空調負荷軽減、食料残渣の飼料化などホテルがSDG s に対してどのような取り組みをしているか実地見学を行う。 【事前学習】ホテル日航アリビラのホームページ等を参考に、ホテルが取り組むSDG s への取り組みについて確認しておくとともに、見学の際に質問したい事項を整理しておくこと。（２時間） 【事後学習】見学した感想や気づいた点をノートにまとめておくこと。（２時間）
第13回	事例研究（目標 1 4） パラオ・プレッジ ・SDG s の目標 1 4 「海の豊かさを守ろう」に関連し、パラオ共和国が実践している環境保護政策について取り上げる。パラオ共和国では観光客が入国する際に、「パラオ・プレッジ（観光客による観光保護の誓い）」に署名することを義務付けし、持続可能な観光の実現に努めている。島嶼観光国のSDG s に対する先進的事例を学ぶ。 【事前学習】観光客による海洋汚染の実態について自身で調べておくこと。（２時間） 【事後学習】島嶼県である沖縄県においてパラオの事例を参考に取る施策がないか考えてみる。（２時間）
第14回	沖縄観光コンベンションビューローの取り組み事例（ゲストスピーカー） ・日本版DMOである沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）よりゲストスピーカーを迎え、OCVBの概要や、OCVBが沖縄観光振興に果たしている役割を学ぶとともに、現在、OCVBが取り組んでいるサステナブルツーリズムの取り組みについての知識を深める。 【事前学習】日本版DMOとは何か、自身で調べておくこと。（２時間） 【事後学習】ゲストスピーカーの講話に対する感想や気づいた点などをノートにまとめておくこと。（２時間）
第15回	グループディスカッション 沖縄観光をより持続可能にするためには

	・沖縄観光をより持続可能にするための課題を探り、その課題解決に向けて取り組むべき具体的対策を検討する。 【事前学習】事前にディスカッションのテーマに関する自身の考え方をまとめておく。（2時間） 【事後学習】全15回の学びを整理・復習し、これを応用して期末レポートの作成を行う。（2時間以上）
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 第4-6回、第12回、第15回 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 情報を収集し、読み解く力を身につける 3) ICTの活用 【○】 Teamsでの学習課題の提示、学習教材の配布 4) 初年次教育 【○】 1年次前期対象 5) 実践的PBL 【○】 第4-6回、第15回
テキスト	授業中に提示、あるいはプリントやデータの提供を行う。
参考書	藤稿 亜矢子『サステナブルツーリズム 地球の持続可能性の視点から』（2018）晃洋書房
評価方法	授業への参加度・授業態度（60%）、期末レポート（40%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【○】 1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【○】 2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【○】 3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【○】 4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	主体的に学び、参加することを大事にしてください。
オフィスアワー	毎週火・水曜日 3時限
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門基礎観光文化科目
担当教員			
上地 恵龍			
授業形態：講義	ナンバリング：TCC106		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 経営学の中には様々な領域が存在する。各領域の基礎となる内容を中心に学ぶとともに、経営理論に関する基礎的知識や概念について学び考える。 【到達目標】 知識・理解の観点：経営学の基本学説や諸理論について学び、経営の全体像を理解する。 技能の観点：企業とは何か、私たちとどのように関わっているのかについて認識すると共に企業が抱える諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方について理解する。 態度の観点：毎回授業のまとめ、質疑応答に参加し、自分と企業とのかかわりについて説明できることが本授業の目標である。		
授業の概要	企業とは何か、経営とは何かを理解したのち、企業間関係、企業と市場、企業と個人の関係について理解を深める。さらに、グローバル化の下、企業の活動と環境が大きく変動しつつある中で、国際経営にどのようなことが求められているのかについて基本的な理解を深める。 また、担当教員は、(株) JALホテルズ専務取締役として関連会社4社を取締役社長として兼務し、国内外の観光現場での実務経験を活かし、国立大学観光産業科学部設置への参画や沖縄県観光振興計画をはじめ行政の政策の立案に関わり、これまで学内外で観光専門人材の育成に携わった教員が、最新の国内外企業の経営活動から体系的経営学の意義について講義を行う。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 経営学の学び方、シラバスの説明。 【事前学習】シラバスを確認により授業内容の流れを確認する。(1時間) 【事後学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(3時間) 第2回 企業と経営—経営学とは何か 経営学を学ぶことの意義を説明する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 第3回 企業とは何か—企業の種類 企業の概念とその種類を説明する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 第4回 経営戦略—種類と策定方法 経営戦略の種類とその策定方法を説明する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 第5回 経営管理—機能と仕組み 経営機能と管理機能と共に、企業経営の管理技法を説明する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 第6回 経営管理—経営資源の管理 その1 企業の資源である材料や商品の管理方法を説明する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 第7回 経営管理—経営資源の管理 その2 企業経営をうまく実施する上で重要な役割を果たす会計や財務の管理方法を説明する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 第8回 経営管理—新たな経営管理のトレンドの紹介 近年では、経営管理のデジタル化について、具体的にどのようなことをすればよいのか？基本的な部分について解説する。 【事前学習】次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入し		

	第9回	て提出する。(2時間) マーケティングの定義 アメリカと日本のマーケティングの定義の相違・関連について解説する。
	第10回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) マーケティングの4Pの重要性 4本柱の4P (Product=製品、place=流通、promotion=プロモーション、price=価格) について解説するとともに、事例研究を行う。
	第11回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) マーケティング・リサーチ マーケティング情報と意思決定、マーケティング・リサーチの概念と手法について解説する。
	第12回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 消費者行動 消費者行動の定義、消費者行動の分析、消費者の購買意思決定過程について解説する。
	第13回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) マーケティングコミュニケーションの重要性 マーケティングの事例研究を行う。マーケティングコミュニケーションプランの作成、発表した後、質疑応答する。
	第14回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 経営組織構造の種類と仕組み 組織と個人の関係性を解説し、事例研究の題材としてはインセンティブとリーダーシップに関する企業事例を用いて理解を深める。
	第15回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 経営組織におけるヒューマンリソースマネジメント (HRM) の重要性 従業員の満足度が上がると、顧客へのサービスが向上し、優秀な人材が定着し、生産性が向上する。組織の理念と企業文化の重要性について事例を用いて解説する。
	第16回	【事前学習】 次回授業のテーマに関する参考文献、ネットで各自調べる。(2時間) 【事後学習】 講義中に紹介された内容とキーワードを整理し、感想とまとめを所定用紙に記入して提出する。(2時間) 講義のまとめと課題発表
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】	
テキスト	1. 1からの経営学(第3版) 中央経済社 加護野 忠男、吉村 典久(共著) 2021年出版	
参考書	加護野 忠男、吉村 典久(共著) 2. 経験から学ぶ経営学入門(第2版) 有斐閣ブックス 上林 憲男、奥林 康司、開本 浩矢、森田 雅也、竹林 明(共著・編集) 2018年出版	
評価方法	各回授業の復習ノートの提出10回×5点(50点) 期中・期末課題の提出 2回×25点(50点)	
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている。 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している。 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している。 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している。 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない。 欠 (K) —：出席不足。	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること	

履修上の注意	日頃から身近な企業と市場、企業活動と個人生活との関係性に対して関心と疑問をもつ姿で受講する事。
オフィスアワー	・ 水曜日 13:00-15:00 ・ 木曜日 12:00-14:00 上地研究室西 2－9
課題に対する フィードバック方法	課題はコメントをつけ、授業中に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門基礎観光文化科目
担当教員			
糸澤 幸子			
授業形態：講義	ナンバリング：TCC107		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 現代社会において生じる身近な異文化や、国境を超えた広域な異文化について学び、それぞれの文化を尊重したホスピタリティの考え方を論理的に理解し、習得した理論を実践的に考えて自ら行動するホスピタリティマインドを身につける。 【到達目標】 知識・理解の観点：ホスピタリティの知識を修得し、各々の異文化を理解することの重要性を学ぶことができる。(DP・DP2対応) 技能の観点：ホスピタリティの視点で課題を見出し、その課題の解決に向けて議論することができる。(DP4対応) 態度の観点：日常生活にてホスピタリティマインドを実践し、異文化の人々と協調することができる。(DP2・3対応)
授業の概要	この授業では、異文化を理解する重要性を学び、ホスピタリティの実践的な知識を修得する。担当教員は、大手旅行会社において、海外旅程管理専門職として勤務した実務経験を活かし、異文化に精通したホスピタリティの在り方について、実践上の課題を踏まえた具体的な事例を提供・解説し、異文化を受容したホスピタリティ理論をわかりやすく講義する。 論理的な思考力で、日常生活において実践できるホスピタリティマインドを身につけ、ホスピタリティ視点による異文化理解力と、コミュニケーション力を体得することが、本授業のねらいである。
授業計画	第1回 オリエンテーション 講義の流れ、教員自己紹介、受講ルール、評価方法の説明。 『ホスピタリティと異文化理解』の導入プロローグ。 【事前学習】 シラバスを読み、授業の流れを把握する。(30分) 【事後学習】 オリエンテーションの内容を確認する。(30分) 第2回 ホスピタリティ精神と概観 ラテン語が由来である『ホスピタリティ』に関する起源、意味、歴史、精神を学ぶ。 サービスとホスピタリティの違いや、ホスピタリティマインドの意味を理解する。 【事前学習】 ホスピタリティという言葉の意味を調べる。(30分) 【事後学習】 授業で学んだホスピタリティマインドを考えながら人と接する。(1時間～) 第3回 ホスピタリティ産業と観光産業 ホスピタリティ産業と観光産業の位置付けを知り、それぞれの産業の内容と特徴について理解する。 【事前学習】 興味のあるホスピタリティ産業について調べる。(1時間) 【事後学習】 文化、文明について、調べる。(1時間～) 第4回 文化と文明、異文化理解の価値 文化、副次文化、文明、それぞれの定義と意味を整理し、文明の衝突の背景を捉えながら、異文化を理解することの価値を学ぶ。 【事前学習】 自分が気づいていない固定観念や価値観を考える。(1時間) 【事後学習】 自分の中のバイアスを探求し、自覚する。(1時間～) 第5回 身近な異文化、広域な異文化 グローバル化が進む現代社会では、家庭内・友人間・職場などの日常で生じる身近な異文化や、インバウンド客、在日外国人、海外旅行や出張等で遭遇する広域な異文化が存在している状況を知る。また、グループディスカッションにおいて、身近なクラスメートの異文化を発見する。 【事前学習】 家族、親戚、友人など、身近な異文化を見つける。(1時間) 【事後学習】 5回までの授業で学んだ内容を復習し、次回の期中テストに備える。(1時間～) 第6回 「期中テスト」、カルチャーマップとは 前半は「期中テスト」を実施する。 後半は、カルチャーマップについて学ぶ。 【事前学習】 これまでの講義内容を復習し、期中テストに備える。(1時間～) 【事後学習】 カルチャーマップを作成して、中間発表会の準備をする。(1時間～) 第7回 ホスピタリティと異文化交流 東京2020オリンピック誘致時のキーワード “おもてなし” 視点で作成された、異文化交流の動画を参考に、実践的な異文化ホスピタリティマインドを学ぶ。 【事前学習】 東京2020オリンピックが開催に至るまでの経緯を調べる。(1時間) 【事後学習】 カルチャーマップを作成して、中間発表会の準備をする。(1時間～) 第8回 中間プレゼンテーション 中間発表の指定課題『私が考えるカルチャーマップ』の発表を行う。発表形式は、パワーポイント発表が望ましい。ポスター発表也可。

	第9回	【事前学習】カルチャーマップを作成し、発表の準備をする。(1時間～) 【事後学習】発表したカルチャーマップから学んだことを考え、日常生活にて実践する。(1時間～) 在日外国人にとっての日本文化 在日30年の外国人講師をゲストスピーカーとして招聘し、外国人視点による日本の異文化について講義を実施する。
	第10回	【事前学習】在日外国人に関する記事やニュースを調べる。(1時間) 【事後学習】ゲストスピーカーへの感想文を、英語、または、日本語で書いて提出する。日本語で書く場合には、一文は英語で書くようにする。(1時間～) エアライン、ホテル、レストランの異文化ホスピタリティ エアライン、ホテル、レストランでの外国人客の異文化を受容したホスピタリティについて学ぶ。
	第11回	【事前学習】エアライン、ホテル、レストランの中で、興味のある分野のホスピタリティについて調べる。(1時間) 【事後学習】日常生活で、ホスピタリティマインドを実践する。実践した内容は、期末発表会で発表するので記録しておく。(1時間～) AI時代のホスピタリティ ホスピタリティ産業・観光産業では、AIロボットがチェックイン・チェックアウト業務を行う『変なホテル』や、飲食店では料理を運ぶ配膳ロボットが実用化している。AI時代のホスピタリティの意味と役割、今後について考える。
	第12回	【事前学習】AI サービスについて調べる。(1時間) 【事後学習】日常生活で、ホスピタリティマインドを実践する。実践した内容は、期末発表会で発表するので記録しておく。(1時間～) 事例研究：日本のインバウンド客 日本国内でインバウンド客が戸惑う異文化事例を紹介し、ホスピタリティの視点から解決方法を検討する。
	第13回	【事前学習】インバウンドに関する記事やニュースを調べる。(1時間) 【事後学習】日常生活で、ホスピタリティマインドを実践する。実践した内容は、期末発表会で発表するので記録しておく。(1時間～) 事例研究：欧米での日本人 出張や海外旅行等で、欧米を訪れる日本人が、異国文化に戸惑う事例を紹介し、ホスピタリティの視点から解決方法を検討する。
	第14回	【事前学習】欧米で日本人に想定される問題を考える。(1時間) 【事後学習】期末発表の準備をする。(1時間～) 事例研究：イスラム諸国での日本人 出張や海外旅行等で、イスラム諸国を訪れる日本人が、異国文化に戸惑う事例を紹介し、ホスピタリティの視点から解決方法を検討する。期末発表会(前半)を実施する。
	第15回	【事前学習】イスラム諸国で日本人に想定される問題を考える。(1時間) 【事後学習】期末発表のパワーポイント資料を作成して提出する。(1時間～) 期末発表会 課題『私が実践したホスピタリティ』について、成果発表会を行う。発表形式は、パワーポイント発表で行う。
	第16回	【事前学習】発表資料をパワーポイントで作成して、事前に提出する。(1時間～) 【事後学習】今後の日常生活でもホスピタリティマインドを意識して実践する。(1時間～) なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】	
テキスト	必要に応じてレジュメを配布する。	
参考書	新約聖書(ルカによる福音書10章25節から37節)、文明の衝突(サミュエル・P・ハンチントン)、The Culture Map(エリン・メイヤー)	
評価方法	授業態度(20%)、期中テスト(25%)、期中プレゼンテーション(20%)、感想文(10%)、期末プレゼンテーション(25%)によって総合的に評価する。	
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている。 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している。 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している。 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している。 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない。 欠(K) —：出席不足。	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【○】1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【○】2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【○】3. 自己理解力	

	豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【○】4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	期中プレゼン資料、感想文、期末レポート等の課題は、指定した期日までに提出すること。期限を過ぎたレポートは理由に関わらず受け付けない。評価方法については初回オリエンテーションで説明する。
オフィスアワー	糸澤 幸子・ ●曜日：限（00：00～00：00） ※ Team チャットにて予約お願いします。
課題に対するフィードバック方法	提出課題はコメントを付した後、フィードバックする。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門基礎（観光文化科目）
担当教員			
安部 潤			
授業形態：講義	ナンバリング：TCC204		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 マーケティングの基礎を習得する。 【到達目標】 ・マーケティング理論を、実際のマーケティング活動事例(ケーススタディ)と照らし合わせて、実践的な知識として習得し、簡単なマーケティングプランが作成できるようになる。 ・指導教員から与えられたテーマについて、調査、検証し、議論できるようになる。		
授業の概要	マーケティングは、単に商品・サービスの売り上げを最大化させるための手法ではなく、さまざまな社会活動において重要な考え方である。 日常生活のなかで目にする実際のマーケティングの事例を検証しながら実践的に学ぶ。 担当教員は、これまで国内外の大手製薬会社で営業・営業企画・マーケティング(海外勤務含む)の各業務において管理職として従事した後、沖縄県内大手旅行会社でマーケティングの責任者として旅行業、レンタカー業の実務をおこなってきた。これらの経験も踏まえて、マーケティングの基礎について、具体的な事例も示しながらわかりやすく解説する。		
授業計画	第1回	ガイダンス 本講義の全体像、受講の心構え、成績評価、本講義の狙い、理解を深めるための説明をおこなう。 講義内容の全体像を把握するため、当ガイダンスで各講義の要点を概説する。 【事前学習】 日常生活の中で自分が気に入っているお店について、なぜ気に入っているのかをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第2回	マーケティング・ミックス(1) -マーケティングのSTPとは マーケティングの基礎的手法としてのマーケティング・ミックスについて、STPの視点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第3回	マーケティング・ミックス(2) -マーケティングの4Pと4Cとは マーケティングの基礎的手法としてのマーケティング・ミックスについて、4P・4Cの視点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第4回	マーケティング戦略(1) -マーケティングの歴史と変遷 マーケティング戦略の歴史、経緯、変遷について、具体的な事例を示しながら概観する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第5回	マーケティング戦略(2) -提供する商品・サービスの本質とは マーケティング戦略の本質、意義などについて、具体的な事例を示しながら概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	
	第6回	マーケティング戦略(3) -ライフサイクルマネジメントとは・PDCAとは 製品やサービスの価値の維持、延長についてライフサイクルマネジメントの観点で概説する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)	

第7回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) ブランド戦略(1) -ブランドとは マーケティング戦略において重要なブランドについて、その基礎を概説する。
第8回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) ブランド戦略(2) -ブランド戦略を実践する企業・組織の事例研究 ブランド戦略について、国内外の事例を紹介し、その重要性を概説する。
第9回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 価格戦略 マーケティングにおける価格戦略について、具体的な事例、最近の事例などを紹介し、その重要性を概説する。
第10回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 商品・サービス開発戦略 商品やサービスを開発する際に留意すべき事項について、事例を紹介しながら概説する。
第11回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) プロモーション戦略 多様化するプロモーションのあり方について、具体的な事例を紹介しながら、その重要性を概説する。
第12回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 業種別マーケティングの事例(1) -製造業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、菓子(沖縄土産品)製造販売業の企業活動例を研究する。
第13回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 業種別マーケティングの事例(2) -宿泊業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、宿泊業の企業活動例を研究する。
第14回	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 業種別マーケティングの事例(3) -旅行業におけるマーケティングの事例研究 沖縄県のマーケティング戦略の事例として、旅行業の企業活動例を研究する。
	【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間)

	第15回 総括 これまでの講義で概説したさまざまなマーケティングの基礎事項をもとに、マーケティング戦略全体の構造を振り返り、総括する。 【事前学習】 日常生活の中でマーケティングに関して気になった事例、用語、新聞記事などをメモして講義に臨んでください。(2時間) 【事後学習】 講義内容の概要を配布する用紙(講義ノート)にまとめ、重要なキーワードなどを検索し、理解を深めること。(2時間) 第16回 期末試験 これまでの講義内容の理解状況を確認する。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 受講生はグループ別に課題を調査し報告をおこなう 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 事前課題でマーケティングに関する新聞記事を読む 3) ICTの活用 【○】 講義、グループ発表はパワーポイントを活用する
テキスト	テキストは使用しません。 講義でレジュメ等を配布して予習・復習できるよう配慮します。
参考書	講義の際に必要な参考文献を紹介します。
評価方法	講義ノート(60%)、期末テスト(40%)によって総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) — : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】 1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【○】 2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【○】 3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【○】 4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	身の回りで日々起こっている社会事象に関心を持って講義に臨んでください。 他の受講生の迷惑になるため、講義中の私語は厳禁とします。
オフィスアワー	水曜日(10:40～12:10)
課題に対するフィードバック方法	課題の結果について、教員から直接学生にフィードバックする。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門基礎（観光文化科目）
担当教員			
糸澤 幸子			
授業形態：講義	ナンバリング：TCC206		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】世界各地の観光地を巡りながら旅程管理業務を務める民間外交官“ツアーコンダクター”の仕事と役割について学び、コンダクター業務の事例研究を通して、添乗ホスピタリティの基礎スキルと課題解決能力を習得する。 【到達目標】 知識・理解の観点：ツアーコンダクターの基本業務である旅程管理を学び、添乗業務の基礎スキルを習得する。 技能の観点：ツアーコンダクターの仕事と役割を理解し、課題の解決に向けて議論することができる。 態度の観点：ツアーコンダクターの存在価値と業務の重要性を把握し、ホスピタリティ視点で理解する。		
授業の概要	この授業では、ツアーコンダクターの仕事と重要性を理解し、添乗ホスピタリティに則した実践的な基礎スキルを身につけることができる。 担当教員は、大手旅行会社において、海外旅程管理専門職ツアーコンダクターとして勤務した実務経験を活かし、ツアーコンダクターの仕事と役割について、実践上の課題を踏まえた国内外のパッケージツアーの添乗事例を提供・解説し、旅程管理業務の基礎知識、及び、添乗ホスピタリティを講義する。論理的な思考力で、ツアーコンダクターの仕事を理解し、観光業界におけるツアーコンダクターの存在価値と重要性を理解することが、本授業のねらいである。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 講義の流れ、教員自己紹介、受講ルール、評価方法の説明。 『ツアーコンダクターとは』の導入プロローグ。 【事前学習】シラバスを読み、授業の流れを把握する。(30分) 【事後学習】オリエンテーションの内容を確認する。(30分) 第2回 旅行会社とツアーコンダクター 民間外交官と称されるツアーコンダクターの種類、勤務形態、職責について学び、旅行会社の業務の流れとツアーコンダクターの位置付けを理解する。 【事前学習】興味のある旅行会社について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第3回 ツアー出発前の準備業務 現地事情の研究、旅行説明会の実施、企画・販売・手配担当者との打ち合わせ、航空券・航空運賃の確認、経理業務とFUNDの受け取り、ツアー参加者への挨拶、関係部署や接客対応業務など、ツアー出発前にツアーコンダクターが行う一連の業務について学ぶ。 【事前学習】興味のある海外パッケージツアーについて調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第4回 旅程管理業務 一出発からホテル到着まで 日本出発時の空港でのチェックイン、受付業務、再集合、挨拶、搭乗案内、機内業務、入国書類、乗り継ぎ、入国手続き、バス/Repとの打ち合わせ、ホテル到着までの一連のツアーコンダクター業務を学ぶ。 【事前学習】興味のある国内外の空港について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第5回 旅程管理業務 一観光とオプションツアー バスによる長距離移動、市内観光、鉄道旅行、馬車旅行、犬ぞり旅行、クルーズ旅行、各種オプションツアーなど、様々な形態の観光におけるコンダクター業務について学ぶ。 【事前学習】興味のある交通手段について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第6回 旅程管理業務 一ホテルと食事、ツアープランニング 前半は、ホテルのチェックイン業務、Repとの打ち合わせ、荷物の管理、レストランにおけるコンダクター業務について学ぶ。 後半は、ツアープランニングを学び、ツアープランを作成する。 【事前学習】興味のある旅行先について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第7回 期中プレゼンテーション、旅程管理業務 一自由行動とショッピング 前半は、ツアープランをプレゼンテーションする。 後半は、ツアー参加者へ自由行動の過ごし方のアドバイス、訪問国の伝統工芸の紹介、魅力的なショッピングアイテムの紹介、適切なショッピング店の案内、現地出発前の免税手続きの案内、別送品に関する案内業務などのコンダクター業務について学ぶ。 【事前学習】ツアープランを作成し、発表の準備をする。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第8回 旅程管理業務 一ホテル出発からツアー終了後 ホテルのチェックアウト、さよならパーティ、写真交換会の設定、帰国後のケア、検疫、税関な		

	どの日本入国手続き、帰国後の報告、精算等のコンダクター業務について学ぶ。 【事前学習】日本帰国時の免税基準について調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第9回 旅程管理業務ーリスクマネジメントと約款ー パッケージツアーの旅程管理業務中に起こる様々なトラブルに対処するリスクマネジメントについて、事例を紹介しながら解説し、旅行約款と課題対応スキルを学ぶ。 【事前学習】パッケージツアーにて予想されるトラブルを考える。(1時間) 【事後学習】これまでの講義内容を復習して、期中テストに備える。(1時間～) 第10回 期中テスト、添乗ホスピタリティ 前半は、期中テストを実施する。 後半は、ハネムーンツアー、フルムーンツアー、学生ツアー、熟年ツアー、スポーツ観戦ツアー、修学旅行、芸能人ロケツアー、映画撮影ツアー、大学教員の学会ツアー、スポーツ観戦ツアー、国際会議ツアー、国会議員ツアーなど、様々な形態のツアーが存在する。それらツアーの数に伴う異なるホスピタリティが存在することを理解する。 【事前学習】期中テストの準備をする。(1時間～) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第11回 事例研究ー欧米豪諸国の添乗ー ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアのパッケージツアーの事例を学ぶ。 【事前学習】欧米豪の興味があるパッケージツアーについて調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第12回 事例研究ーアジア・アフリカ・中東の添乗ー アジア、アフリカ、中東のパッケージツアーの事例を学ぶ。 【事前学習】アジア、アフリカ、中東の興味があるパッケージツアーについて調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第13回 事例研究ーSIT ツアー・宇宙旅行・南極の添乗ー SIT、宇宙、南極のパッケージツアーの事例を学ぶ。 【事前学習】宇宙、南極の興味があるパッケージツアーについて調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第14回 事例研究ーエコツアーの添乗ー エコツアーの旅程管理業務の事例を学ぶ。 【事前学習】エコツーリズムツアーについて調べる。(1時間) 【事後学習】本日の講義内容をまとめ、理解を深める。(1時間～) 第15回 事例研究ークルーズツアーの添乗ー クルーズツアーにおける旅程管理業務の事例を学ぶ。 【事前学習】興味のあるクルーズ船について調べる。(1時間) 【事後学習】指定課題について期末レポートにまとめて提出する。(1時間～) 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	必要に応じてレジュメを配布する。
参考書	講義において、適宜紹介する。
評価方法	授業態度 (25%)、期中プレゼンテーション (25%)、期中テスト (25%)、期末レポート (25%) によって総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【○】1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【○】2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【 】3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【○】4. 課題対応力

	グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	期末レポート等の課題は、指定期日までに必ず提出すること。期限を過ぎたレポートは理由に関わらず受け付けない。評価方法については初回オリエンテーションで説明する。
オフィスアワー	糸澤 幸子・ ●木曜日：4限（14：40～16：20） ※ Teamsチャットにて予約お願いします。
課題に対する フィードバック方法	提出課題はコメントを付した後、フィードバックする。

講義科目名称： エアラインサービス論

授業コード：

英文科目名称： Airline service

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位 (2-0)	選択科目：学科専門応用 (ホスピタリティ領域)
担当教員			
愛甲 香織			
授業形態：講義	ナンバリング：HPF204		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本講座では、キャビンアテンダント（客室乗務員）、グランドスタッフ（地上職）などの航空業界をはじめ、観光・ホスピタリティ業界の業務内容を学び、業界全体への理解を深めることを目的とする。また、航空・観光・ホスピタリティ業界で求められるホスピタリティマインド、接遇スキル、コミュニケーション能力、異文化対応力を習得し、将来のキャリア形成に役立てることを目指す。 本講座では、以下の力を養うことを到達目標とする。 ・航空・観光・ホスピタリティ産業における基礎知識の習得 ・人間関係構築力・折衝力・自己管理能力の向上 ・実践的な接遇スキル（敬語・マナー・クレーム対応）の修得 ・異文化対応・チームワーク力の向上 ・就職準備（面接・自己PR・キャリアプランニング）		
授業の概要	本講座は、講義とワークショップを組み合わせたアクティブラーニング型の授業であり、受講者の主体性を促し、実践を通じて学ぶことを重視する。授業では、LSP（LEGO® SERIOUS® PLAY）、KJ法などの手法を活用したチームワークを通じて、他者との関係構築力を高めるとともに、課題発見・解決能力や創造的思考を成長させる。また、ディスカッション、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを取り入れ、実際の業務を想定したコミュニケーションスキルを磨く。 さらに、就職準備対策の一環として、面接練習や自己PRのフィードバックを行い、実践的なキャリア形成につなげる。最終日には、学びの成果をまとめたプレゼンテーションを実施し、受講者自身がホスピタリティの本質について考え、表現する機会を設ける。 講師は、元客室乗務員として29年間の乗務経験と9年間の管理職経験を持ち、国家資格キャリアコンサルタント、認定心理士の資格を有する。業界の具体的な業務や求められる資質について、実体験を交えながら解説し、体験的な学びを通じて、知識と実践スキルの習得を目指す。また、航空・観光・ホスピタリティ業界におけるキャリアパスや進路選択の情報を提供し、受講者が自身の将来を具体的にイメージできるよう支援する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 講座を通して学べることを確認する 1. 講座の概要説明、学習の進め方 2. 業界研究の重要性と情報収集の方法 3. 就職活動への活用方法 【事前学習】 配布資料を読み、関連情報をネットや文献などで調べ、業界の基本知識を習得する 自分が興味を持つ分野や職種を考え、質問や疑問点を整理する 最新の採用トレンドや求められるスキルについてリサーチする 【事後学習】 受講レポートの記入（学んだこと、業界に対する理解の進化） 就活サイトへの登録、プロフィールの作成 業界ニュースや専門メディアの定期的なチェック 第2回 エアライン・観光業界の最新動向 1. 航空業界・観光業界の現状とトレンド 2. AI時代の観光・エアラインサービス AIやデータ活用が業界に与える影響 3. 各業種の仕事内容（キャビンアテンダントCA、グランドスタッフGS） 4. 求められる人物像、キャリアパス、就業に役立つ資格 【事前学習】 配布資料を読み、業界の最新動向を把握する。自分が関心を持つ職種について調べ、疑問点をリストアップする 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入（学んだこと、業界の魅力、自分の適性分析） 自分の強みやスキルを振り返り、どの職種に活かせるか考える 取得すべき資格や学ぶべきスキルを整理し、今後の学習計画をたてる 第3回 サービス概論 1. サービスとは何か？（顧客に提供する価値とは） 2. 顧客満足（CS）と顧客感動（CD） CRM、NPSを知る 3. ホスピタリティ産業 サービス事例 4. ワークショップ：自分が受けた良いサービス 【事前学習】 自分が受けたサービスについて、体験をまとめる 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 日常生活において、サービスを受けていることを意識して過ごす		

第4回	ホスピタリティ概論 1. ホスピタリティと何か？ 2. サービスとホスピタリティ 3. ホスピタリティ産業における「エクスペリエンスデザイン体験価値」「カスタマーエクスペリエンス(CX)」 4. ワークショップ：共感力 エンパシーを高める心のトレーニング 【事前学習】 ホスピタリティ、ホスピタリティ産業について調べる 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 日常生活の中で、ホスピタリティを意識する。共感力を高める心のトレーニングを実践する
第5回	接遇とマナーの基本 1. 第一印象の重要性、 2. 接遇の基本項目 身だしなみ・表情・目線・挨拶・お辞儀・姿勢・動作 3. エアライン・観光産業に求められる接遇 4. ロールプレイ：接遇スキル実践 【事前学習】 レジュメを読み接遇の基本項目について事前に確認する。 エアライン・観光産業での接遇の実践場面をイメージする 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 日常での接遇意識の向上 日常生活で意識して実践する ロールプレイの際の自己評価を行い、改善点をみつける
第6回	社会人としてのところがまえ、ビジネスマナー 1. 職場のルールとマナー 2. ビジネスマナー 仕事をするために必要な常識や知識 3. 電話対応、名刺交換、ビジネスメール、携帯電話、SNS、会議 4. ロールプレイ：就職活動の電話、メール実践練習 【事前学習】 レジュメを読み、職場のルールとマナーを理解する 自分の経験や身近な事例から、ルールを守る重要性を考える 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 日常でのビジネスマナーの実践 ロールプレイの振り返りと自己評価
第7回	コミュニケーションの基本 1. 言語・非言語コミュニケーション 2. アクティブリスニング（傾聴技法） 3. すぐに使えるコミュニケーションスキル 多文化コミュニケーションは誤解は当然、理解は偶然 4. 伝えたいことを上手にまとめる方法 5. ロールプレイ：効果的なコミュニケーション実践 【事前学習】 コミュニケーションにコミュニケーションにコミュニケーションにおいて難しさを感じる場面、 どんな時？どんな場面か考える 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 相手と良い関係を築くコミュニケーションを意識する。心に伝わる話し方、発声方法を習得し、就職活動に活かす
第8回	美しい日本語を話そう エアライン・観光業界における言語の重要性 1. 敬語の用法、敬語の種類 2. ウチとソト、いつどこで、誰に、どのような敬語を使うか。 3. 言葉遣い練習 面接、日常生活、大人も間違える言葉遣い 4. ワークショップ：1分間自己紹介 【事前学習】 事前にレジュメを読んでおく 敬語で迷った、困った経験を整理しておく 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 社会生活、就職活動で自然に使えるように、日常生活で実際に使い慣れること
第9回	多文化理解・多文化コミュニケーション 1. 多文化理解、多様性ダイバーシティとは？ 2. ハイコンテキスト文化とローコンテキスト文化 外国人対応の実例 3. 世界を知ろう。各国特徴、タブー、食事、宗教 4. ワークショップ：沖縄の魅力を紹介する 【事前学習】 自分の異文化体験をまとめておく 多文化理解・ダイバーシティについての基礎知識を得る

第10回	【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 日本、沖縄の文化を紹介する準備をする 多文化環境での実践を意識する エアライン・観光業界 キャリアプランニング 1. 人生100年時代のキャリア形成 2. 業界のキャリアパス、企業の選び方 3. 自分を知らう、自己分析の方法 4. ワークショップ： 自己の強みと適性分析 【事前学習】 職業選択、キャリアについて考える 参考図書 「LIFE SHIFT」100年時代の人生戦略 リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット 東洋経済新報社
第11回	【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 業界分析を深める 自己分析を行う エアライン・観光業界 就職活動準備 1. 就職活動のスケジュール 2. 求人票の見方、企業の選び方 3. 履歴書、エントリーシート対策 4. ワークショップ：今の自分、未来の自分 My historyを描く 【事前学習】 就職活動の流れについて調べる ワークショップの準備をする ・「今の自分」と「未来の自分」を考えるために、これまでの経験を振り返る
第12回	【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 就職活動のスケジュールをたてる。必要なアクションをとる ワークショップの「My history」をもとに 自己分析を深める エアライン・観光業界面接対策 1. 最新面接事情 面接の形と種類 2. 印象力アップの方法 3. 面接のマナー 4. ストレス対策・モチベーション維持 【事前学習】 最新の面接事情を調べる 自己PR、自己紹介の練習をしてみる ・スマホで録音、録画して確認するのも有効)
第13回	【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 模擬面接のフィードバックを活用する ストレス管理とモチベーション維持を実践する 講座の振り返り、試験対策 1. 講座の振り返り Q & A 2. 重要ポイントの整理 3. 1 on 1 1人の質問対応、フィードバック 【事前学習】 講座の内容を振り返る 自分の振り返りレポートをみて、何を学んだか再確認しておく ・理解できている部分と曖昧な部分を明確にする 自分の疑問点、講師に質問することを整理する
第14回	【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 1 on 1のフィードバックを活かす 筆記試験 知識確認 (エアライン・ホスピタリティ業界、待遇・敬語・ビジネスマナーなど) 選択、記述式 50問
第15回	LSP (LEGO®SERIOUS PLAY) によるプレゼンテーション準備 1. LSP (LEGO®SERIOUS® PLAY) 入門 レゴブロックをつかって、自分の考えを言語化する方法 課題発見力、創造力、共創力が身につく 2. ワークショップ:個人で、チームで、作品をつくる 3. テーマ①「私が考えるホスピタリティとは？どうすればホスピタリティを向上できるのか」 4. テーマ②「創りたい未来」 【事前学習】 LSP (LEGO®SERIOUS® PLAY) を最大限に活用し、効果的なプレゼンテーションを行うための準備 自分の考えを言語化する準備

	・「ホスピタリティとは何か」を自分なりにまとめておく ・「創りたい未来」について、自分が大切にしている価値観やビジョンを整理する 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 LEGO作品を創ることで、どのような体験をしたか記録する 自分の思考を言語化した経験を、日常生活で活かす 第16回 プレゼンテーション発表&まとめ 1. チーム発表 2. ポジティブ心理学入門&実践 ・ポジティブ心理学とは幸福を科学的に研究する学問 3. ロールアップ 【事前学習】 チーム発表の準備 ・各チームのプレゼンテーション内容を整理し、発表の流れを確認する ・発表の分担を決め、スムーズに進められるようにリハーサルを行う 「幸福とは何か？」を自分なりに考える 【事後学習】 受講振り返りレポートの記入 ポジティブ心理学の実践 ・ポジティブな思考習慣を身につけるために具体的な行動を実践する
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	講師作成レジュメを配布予定、事前に目を通しておくこと
参考書	授業中に指示する
評価方法	筆記テスト 65% 講座振り返りレポート 15% ワークショップ&ロールプレイ参加 20%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) — : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【○】 1. 知識・理解 建学の精神を礎とした平和を創造する力を養い、観光・文化の専門的な知識を身につけ、地域社会・国際社会の発展に貢献することができる。 【○】 2. コミュニケーション力 外国語を駆使しながら多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、他者と協働するとともに、他者に方向性を示し、リーダーシップを取ることができる。 【○】 3. 自己理解力 豊かな人間性をもって自己をコントロールし、主体性を持って自分の考えを表現し、自ら目標を見つけて行動することができる。 【○】 4. 課題対応力 グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、自ら課題を見出し、論理的思考力で、実践的に解決することができる。
履修上の注意	・本講座は、主体的な学びを重視し、受講者の積極的な参加が求められる。 ・ワークショップでは、チームビルディングを通じて他者との協働を学び、課題発見・解決力を高める。 ・LEGO® SERIOUS® PLAY (LSP) やKJ法などを活用し、創造的思考や実践的なコミュニケーション能力を養う。 ・ロールプレイやプレゼンテーションを通じて、意見を発信し、フィードバックを受けながらスキルを向上させる。 ・講義中の積極的な質問やディスカッションへの参加を推奨する。 ・就職準備に直結する内容を含むため、進路を意識して受講することが望ましい。 ・面接練習や自己PRのフィードバックを活用し、実践的なスキル向上を目指す。
オフィスアワー	質問は講義中または講義終了後に随時受け付ける。 メールやチャットを活用し、個別の質問にも対応可能。 Teams Class Room を活用し、オンラインでの質問受付や資料共有を行う。
課題に対するフィードバック方	課題に対するフィードバックは、個別コメントを通じて提供。

法	プレゼンテーションや面接練習については、1on1のフィードバックを実施。 Teams Class Room でのオンラインサポートを予定
---	--

学校法人沖縄キリスト教学院 役員等名簿

【理事会】

2025 年 6 月 11 日現在

役職	氏名	選任区分	任期	担当する職務内容 や期待する役割	学外者
理事長	金 永秀	1 号理事 学長	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		
理 事	城間仙子	2 号理事 理事会	2025. 6. 11～ 2029. 6 月	教学支援担当	
理 事	高嶺 豊	2 号理事 理事会	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
理 事	具志堅篤	3 号理事 日本キリスト 教団沖縄教区	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
理 事	我那覇健	4 号理事 評議員会	2025. 6. 11～ 2029. 6 月	財務担当	○

【監 事】

2025 年 6 月 11 日現在

役職	氏名		任期		学外者
監 事	上江洲由正		2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
監 事	友利健太		2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○

【評議委員会】

2025 年 6 月 11 日現在

役職	氏名	選任区分	任期		学外者
評議員	上地恵龍	1 号評議員 法人職員	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		
評議員	新垣友子	1 号評議員 法人職員	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		
評議員	岩崎良亮	2 号評議員 卒業生	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
評議員	砂川久美子	3 号評議員会 学識経験者	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
評議員	当山勝利	3 号評議員会 学識経験者	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○
評議員	小岸弘和	3 号評議員会 学識経験者	2025. 6. 11～ 2029. 6 月		○

【会計監査人】

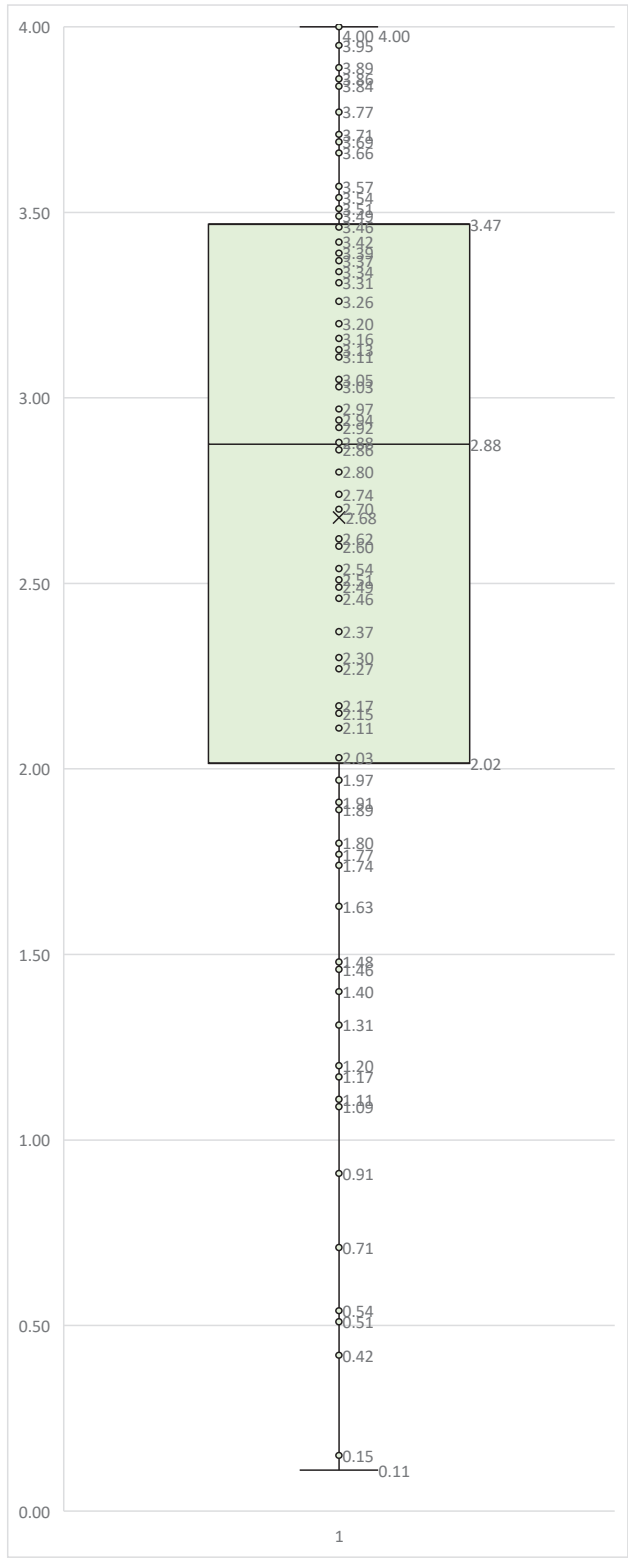
2025 年 6 月 11 日現在

	氏名		任期		学外者
	田里友治		2025. 6. 11～ 2026. 6 月		○
	賀数紀之		2025. 6. 11～ 2026. 6 月		○

2024年度 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 成績分布

IRセンター

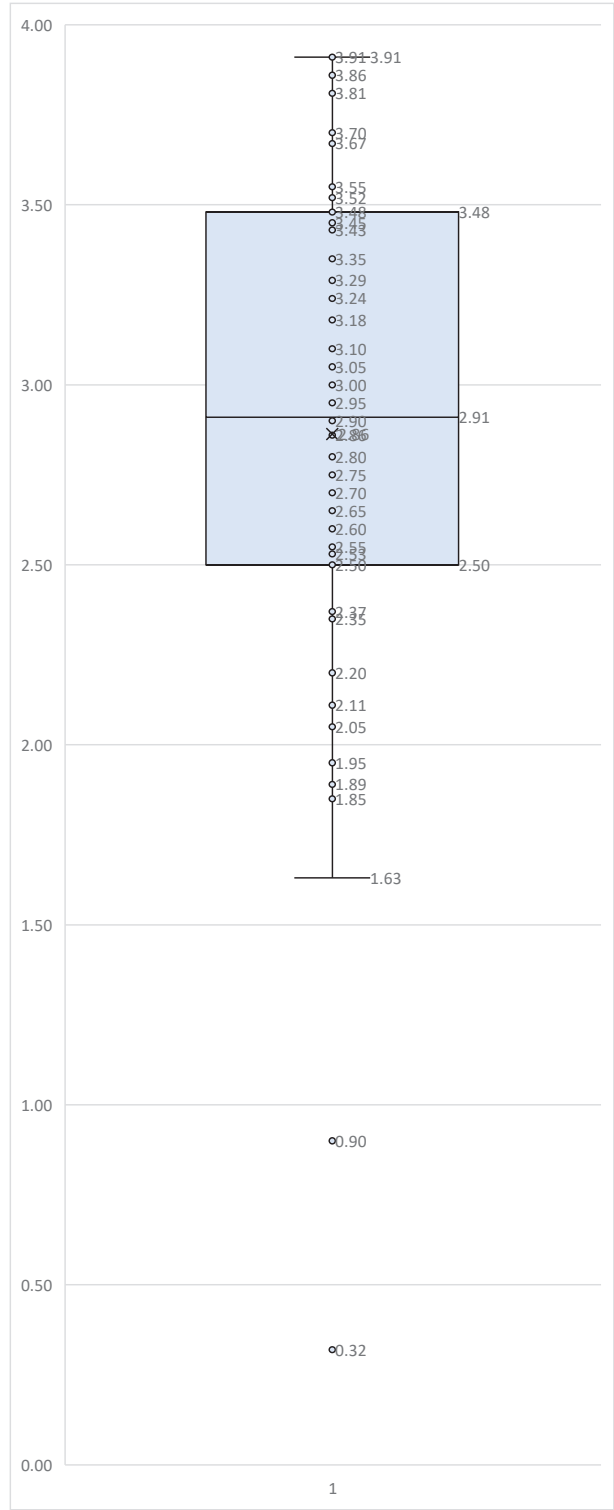
■2024年度 年間GPA 箱ひげ図



■説 明

対象 : 2024年度 第1学年学生		
対象学生数	110	人
GPA3.0以上	47	人
GPA2.0以上3.0未満	36	人
GPA1.0以上2.0未満	20	人
GPA1.0未満	7	人
GPA最大値	4.00	
GPA最小値	0.11	
GPA平均値	2.68	
GPA中央値	2.88	
下位GPA1/4のGPA (A) ※第1四分位	2.02	
(A)以下の人数	27	人

■2024年度 年間GPA 箱ひげ図



■説 明

対象 ： 2024年度 第1学年学生

対象学生数	55	人
GPA3.0以上	25	人
GPA2.0以上3.0未満	24	人
GPA1.0以上2.0未満	4	人
GPA1.0未満	2	人
GPA最大値	3.91	
GPA最小値	0.32	
GPA平均値	2.86	
GPA中央値	2.91	
下位GPA1/4のGPA (A) ※第1四分位	2.50	
(A)以下の人数	15	人

設置する学部・学科

沖縄キリスト教学院大学

人文学部 英語コミュニケーション学科

観光文化学科